

2005年度

# 夏季日本語教育実習報告書

2005年度日本語教育実習生

稲田朋晃

大島晋

太田真由美

河口苗子

国沢里美

越賀智映子

長谷川紀子

林真紀

## 目次

0. 2005年度実習報告書作成によせて .....	1
1. 概要 .....	2
2. 各係の仕事 .....	4
2. 1. 渉外（外部） .....	5
2. 2. 渉外（内部） .....	8
2. 3. 文書作成係 .....	10
2. 4. 備品・会計 .....	13
2. 5. 書記 .....	17
2. 5. 報告書 .....	18
3. 実習に向けた調査 .....	19
3. 1. 調査（第一段階） .....	19
3. 2. 調査（第二段階） .....	26
4. 実習の実施 .....	30
4. 1. Aクラス .....	30
4. 2. Bクラス .....	48
4. 3. Cクラス .....	58
4. 4. Dクラス .....	67
4. 5. 遠足 .....	81
4. 6. フェアウェル・パーティー .....	83
4. 7. 事後アンケート .....	85

## 0. 2005年度実習報告書作成によせて

日本語文化専攻日本語教育学講座 日本語教育実習担当

鷺見 幸美

本年度も、名古屋市教育委員会、名古屋大学留学生センターのご協力を賜り、実習生が貴重な日本語教育実習を経験することができた。まず、関係各位に心よりお礼申し上げる。

本年度の日本語教育実習には、博士前期課程2年の日本語母語話者8名が参加した。本年度の特徴は、実習生のほとんどが日本語教育経験のない者であり、経験のある者も非常に限られた僅かな経験しかないという点である。その8名が、1年次秋の名古屋大学留学生センター開講の日本語授業見学を経て、春には名古屋大学留学生センター春季集中日本語講座で一つのクラスを担当し、夏に名古屋市教育委員会英語指導助手（AET）を対象としてコースを開講した。そして、修士論文を提出した後休む間もなく、この実習報告書をまとめた。

博士前期課程の2年間は瞬く間に過ぎて行く。修士論文のことで頭がいっぱいで、多大な時間をとられる教育実習を敬遠する学生も少なくない。その中で、実習参加の8名は、非常に熱心に教育実習に取り組んだ。特に、夏季実習におけるチームワークの良さが印象的である。実習生による自主運営を基本とした夏季実習は、コースデザインを含む包括的な体験ができ、学ぶことが多い反面、負担・責任も重い。その運営において、それぞれの長所を生かした役割分担をし、仕事を押し付け合うことなく、他者に頼りすぎることなく、誰もが実習メンバーとしての責任を積極的に果たしていた。一人一人が学習者中心に考えることで、必然的にチームワークが良くなっていたのだと思う。また、彼等が忌憚なく意見交換をし、互いの長所・短所を受け入れ、経験不足を補い合い、学び合う姿が、非常に頼もしく感じられた。

「学習者を中心に考え、協働できること」、これは日本語教師として、備えるべき重要な能力の一つではないだろうか。学習者を中心に考えるからこそ協働できる、学習者を中心に考えるからこそ実践から学ぶことができる、協働の姿勢があるからこそ学び合うことができるのである。教育現場で実践を重ねることで獲得される能力もある。しかしながら、逆に喪失されてしまう能力もあるように思う。実習生8名が、「学習者を中心に考え、協働する能力」を失うことなく、さらにそれを伸ばし、日本語教育の現場で活躍することを期待したい。

多くの実習生にとって、この教育実習は教育現場での第一歩である。教育経験のない彼らが、実際に学習者を前に教壇に立つことにより得られるものがいかに大きかったかは言うまでもない。教えることの面白さも、難しさも、教えてみなければ実感できない。教育現場に立ってみなければわからないことは山ほどある。この経験を生かし、今の新鮮な気持ち、真摯な態度を忘れず、成長を続ける教師であってほしい。そして、研究だけでなく、教育現場を大切にする姿勢を貫いてほしい。

# 1. 概要

## I. 実習の概要

本実習（「名古屋大学夏期日本語教育実習」）は、名古屋市に JET（Japan Exchange and Teaching）プログラム新しく赴任する AET（Assistant English Teacher）を学習者とし、名古屋大学大学院生が教師を務める教育実習である。1989 年、名古屋市教育委員会の協力により実現の運びとなり、本年度で 16 回目を数えた。

また、今回は JET プログラムの AET の参加数が少数と見込まれていたため、民間の外国人指導助手派遣会社（株）アルティアセントラル）からも学習者を募った。

## II. 実習生と担当したクラス

担当した実習生は 8 名で、2 名ずつに分かれて 4 クラスをそれぞれで担当した。なお、4 クラスは A B C D で分類され、A から順にレベルが上がっていく。以下に、それぞれのクラスを担当した実習生を挙げる。

### A クラス

長谷川紀子 林真紀

### B クラス

河口苗子 越賀智映子

### C クラス

大島晋 太田真由美

### D クラス

稲田朋晃 国沢里美

基本的に各クラスは独立して運営されていたため、シラバス、テキスト、カリキュラムなどはすべて各クラス担当者が考えたものをそれぞれ採用している。

## III. 実習期間

実習期間は、AET の来日する期日及び、彼らが業務を開始する期日、さらには実習を行う名古屋大学の利用可能な日程という 3 つの外的要因、また各実習生の都合などを考慮し、2005 年 8 月 10 日～12 日、17 日～19 日の全 6 日間で行われた。13 日には常滑への課外活動も計画された。

実習期間中は午前 9 時 30 分から午後 12 時 20 分までの 170 分間で、A・B・D クラスは一日各 50 分の 3 時限で 10 分休憩、C クラスは一日各 75 分の 2 時限で 20 分休憩の時間割で授業を行った。また、最終日である 19 日は授業時間を午後 12 時までとして、授業後にフェアウェル・パーティーを行った。

#### IV. 学習者

学習者は計 25 名で、AETの学習者は 18 名、民間からの学習者は 7 名。男女では男性 17 名、女性 8 名で圧倒的に男性の数が女性を上回った。最後に学習者の国籍（かつこ内の数値は人数）を以下にまとめる。

アメリカ（7）

カナダ（6）

イギリス（5）

アイルランド（2）

オーストラリア（2）

ニュージーランド（2）

#### V. 総括

実習の準備に当たって、メーリングリストや週一回程度のミーティングを通じて、実習生同士で学習者や実習内容に関する情報交換を密に行った。前述したとおり、各クラスについては基本的に独立して運営されており、それぞれ担当する実習生の判断によって教授項目などのクラスに関する内容が決められた。

全体の反省としては、実習中はその場その場のことに気を取られてしまい、実習後は終えたという達成感に陶酔してしまい、実習の記録が疎かになってしまった点が挙げられる。したがって、報告書を作成する際にはかなりの部分を記憶に頼っていることである。

各クラスでの反省は、それぞれの報告書に書かれているため、ここでは省略するが、反省することが多かったということは学ぶべきことが多かったということであり、それは実習が有意義なものであったと言い換えることが出来るであろう。

<大島>

## 2. 各係の仕事

ここからは、渉外（外部）、渉外（内部）、文書作成係、会計・備品、書記、報告書をそれぞれ担当した実習生による報告書となる。この係については、一人の負担が大きすぎて不公平にならないように調整したつもりではあるが、係による負担の偏りがあったことは否めない。しかし、担当の実習生が全てをやるわけではなく、適宜協力を求めたり、助け合ったりしながら実務をこなしたおかげで、不満の声のあがった係はなかった。以下に、それぞれの係の担当実習生を挙げる。各係の実務上の区分については、それぞれの報告書に記してある。

係名	担当実習生
渉外（外部）	稲田・太田
渉外（内部）	林
文書作成係	国沢・越賀
会計・備品	長谷川
書記	河口
報告書	大島

なお、前述したように、報告書は各担当者が記したため、ここでは執筆者を挙げることは省略する。

<大島>

## **2. 1. 渉外（外部）**

### **I. 渉外の仕事**

渉外係の仕事は、名古屋市の AET を管轄する名古屋市教育委員会との実習生側連絡窓口となることである。おもな業務としては、実習に参加してくれる AET の募集、アンケート、インタビューなどの実施方法や日程の調整、参加者個人への各種のメール連絡などが挙げられる。

### **II. 名古屋市教育委員会**

名古屋市教育委員会の AET に関わる業務は、2 か所で行われている。1 か所は、市役所東庁舎 6F にある名古屋市教育委員会（学校教育部指導室）であり、もう 1 か所は、栄にある「教育館」の外国人講師室である。「教育館」は、名古屋市教育委員会の AET 業務の拠点ともいえる場所で、教育委員会の AET 担当者が駐在しており、2 週間ごとに JET のミーティングが行われるなど、AET が頻繁に出入りする場所である。

実習生と教育委員会側との連絡は、市役所へ 1 度だけ伺い実習への協力をお願いした後はおもに教育館の AET 担当者（今回は片山氏等）と行った。

AET 担当者の方々は、JET（JET プログラムで来日する AET）への連絡をしてくださっただけでなく、民間派遣会社の AET との連絡の仲介も行ってくださった。

### **III. 本年度の対象学習者**

名古屋市の AET には、JET プログラムによるものと企業派遣（民間派遣会社「アルティアセントラル」、「マクシード」）によるものがある。

名古屋市教育委員会は、例年、新規の JET に対し、本日本語研修コースへの参加を義務として下さる。

本年度は、新規 JET 以外（新規ではない JET、企業派遣）にも、参加を募った結果、新規 JET、3 年目の JET、及びアルティアセントラルからの参加を得た。

### **IV. 経緯**

以下に、本年度の渉外活動の経緯を記す。

5月16日 市役所訪問（稲田、太田）

名古屋市教育委員会 学校教育部 指導室 指導主事の鬼頭氏に挨拶。

コースの概要を記した紙を持参。名古屋市側から、コースの日程を決めて欲しい、それによって市の行事も調整して下さるとのこと。

- 5月27日 教育館の片山氏に電話（稲田）  
コースの内容、開始日を伝える。  
（新規JETと直接メールをやり取りしてもいいとのことなので）新規JETのメールアドレスを依頼。
- 6月1日 教育館の片山氏に電話（稲田）  
去年受講したAETに1年後アンケートをしたいと告げる。
- 6月13日 教育館訪問（稲田、太田）  
名古屋市教育委員会 国際理解教育指導員 片山氏に挨拶。  
コースの概要を説明。  
（片山氏が1年後アンケートを実施して下さるとのことなので）片山氏に1年後アンケートを渡す。
- 6月16日 教育館訪問（稲田）  
片山氏から1年後アンケートを受け取る。
- 6月18日 新規JETにメール送信（稲田）  
新規JETにWEB上のアンケートに答えてもらうようにメールを送る。
- 6月30日 教育館から電話（稲田）  
アルティアセントラルAETの参加希望者8名の名簿をもらう。  
アルティアセントラルAETのインタビュー場所・時間の決定（7月11日、青年会館）。  
新規JETのインタビュー場所・時間について案が出る（8月5日、教育館）。
- 7月17日 新規JET、アルティアセントラルAETにメール送信（太田）  
新規JET、アルティアセントラルAETに遠足（常滑）の案内と出欠確認のメールを送る。  
（アンケートが未回答の新規JETに対しては、アンケートへの回答も依頼。）
- 8月1日 教育館に「コース概要」「承諾書」を郵送（稲田）  
教育館に「コース概要」と「承諾書」を新規JETの人数分、郵送する。
- 8月5日 アルティアセントラルAETにメール送信（稲田）  
アルティアセントラルAETに「コース概要」と「承諾書」をメールで送る。

9月7日 市役所の鬼頭氏にメール（太田）

コースの終了を報告する。

9月9日 教育館訪問（稲田、太田）

コースの終了を報告する。

JETの出席表、並びにコースの概要・渉外の経過などを渡す。

（アルティアセントラル AET の出席表も望まれたので、後日、片山氏にメール（稲田））

10月26日 教育館訪問（稲田、太田）

学習者（JET、アルティアセントラル AET）の常滑焼きの作品を鬼頭氏に渡す。

（Bクラスから依頼されたフェアウェル・パーティーの写真も渡す。）

## V. 終りに

本年度の渉外の活動を通じて、次の2点を特に挙げておきたい。

まず、1つは、教育館の片山氏が大変協力的であったことである。例えば、私達が、JETミーティングの際に伺って、昨年受講したAETへの1年後アンケートを実施しようと考えていたところ、片山氏が1年後アンケートを一手に引き受け、迅速に実施して下さった。今回の実習については、少なからぬご迷惑をお掛けしたことと思うが、いつもてきぱきと親身になった対応をして下さった。心より、感謝申し上げたい。

次に、（これは、本年度の実習の特徴でもあると思うのだが）インターネットの有効的な活用である。

私達は、WEB上に、アンケート（実質的なニーズ調査）を設定したのであるが、学習者のアンケートへの入りやすさ、書き込みやすさなど、かなり工夫したものであった。ニーズ調査という面から見れば、その後に行ったインタビューと合わせて、多くの問題点があると思うが、事前アンケートとしては、回収率から見ても、大いに成功であったと考える。

また、アンケートの依頼、遠足（常滑）の案内などの作成に当たっては、ネイティブのアドバイスを受け、程度の高い依頼・案内文を送ることができた。それ故に、返信されて来た回答のメールは、どれもフレンドリーなものであった。

これらを通じて、まだ母国にいる学習者（新規JET）と、コースの開始以前に多少とも、コミュニケーションがとれたことは、学習者によっても教師（実習生）にとっても情意的に良いことではなかったかと思う。

<稲田・太田>

## 2. 2. 渉外（内部）

学内の渉外を担当。実習期間に使用する教室の確保・管理を行う。具体的な仕事内容は、以下の通りである。

### I. 授業用の教室及び設備について

昨年度の教室使用状況と今回の参加人数（学習者 22 名、実習生 8 名、合計 30 名）を考慮し、文系総合館の 609、611、612、623、522 教室を使用することとした。また、C クラスがパソコンを用いた授業を行うため、今年度は、パソコンが 10 台程設置してある 610 のコンピュータ実習室も使用することとした。

教室の予約は、国際言語文化棟の事務室にて行った。事務室に教室予約用のファイルが保管してあるので、使用する日時と用途を書き込むという形で手続きを行った。その後、事務室から文系総合館の受付に予約の連絡が入るとのことであったが、当日、教室の鍵が他者に借りられてしまうという万が一の事態を防ぐために、改めて文系総合館の受付で予約の確認を行い、使用教室と日時を記した紙を受付窓口に貼らせてもらった。

尚、610 のコンピューター実習室に関しては、上記のような事務室での手続きとは異なり、まず、管理を担当している国際多元文化専攻助手に利用の許可を得た上で、文系総合館の受付に予約の依頼と使用日時の掲示を行った。

また、実習期間中は、各教室の入り口に「AET 日本語教育実習のため、～日から～日の～時から～時まで教室を使用します。」という掲示を行った。

各クラスの人数と部屋の広さ、使用可能な機器（テレビ、ビデオ、DVD）を確認した上で、使用する教室を会議にて以下のように決定した。

A クラス	623	<機器（テレビ、ビデオ、DVD）あり>
B クラス	609	<機器なし。予備教室 522 の機器を使用>
C クラス	611	<機器あり>
	610	<コンピュータ実習室>
D クラス	612	<機器あり>
予備	522	

B クラスが使用した 609 教室には機器の設備がなかったため、事務室に確認をとった上で、522 教室の機器を移動させた。また、C クラスだけでなく、D クラスも授業にパソコンを利用したいとの申し出があったため、日本語文化専攻大院生室のパソコンルームを一時的に使用した。その際、事前に使用予定の時間帯をパソコンルームの扉に掲示し、他の院生の了承を得た。

実習期間中は、各クラスの担当者に使用する教室の管理を任せた。毎朝受付で鍵を借り、使用後、返却してもらった。予備として確保した 522 教室は、渉外（内部）担当の林が管理した。

## Ⅱ. Farewell Party 用の教室について

最終日に行う Farewell Party の為、実習参加者全員が入る部屋を確保する必要があった。昨年度までは日本語文化専攻大学院生室を使用していたようだが、今年度は文系総合館 6 階のファカルティラウンジを使用した。他の院生に迷惑がかかる心配もなく、有意義な時間を過ごせたのではないかと思われる。

ファカルティラウンジの予約に関しては、特に必要な手続きはなかった。日本語文化専攻助手に確認をとった後、部屋の扉に使用日時を書いた紙を掲示し、他の院生の上承を得た。鍵は、他の教室同様、文系総合館の受付で借りた。

<林>

## **2. 3. 文書作成係**

### **I. 仕事の内容**

係りの負担量を考え、今年度は新しく「文書作成係」を設けた。全体に関わる配布資料の作成を行なう係である。

作成したのは以下の文書である。

- ・ 1年後アンケート（3種類／昨年度 A クラス、昨年度 B クラス、昨年度 C クラス）

- ・ 事前アンケート（紙面：昨年度の不参加者）

※今年度参加者に対しては WEB で実施した

- ・ 事後アンケート（全クラス共通の部分）

※これは全体に共通するアンケートを指す。クラス別に行なった事後アンケートはそれぞれのクラス担当者が作成した。

- ・ コース承諾書（2種類／JET 用、アルティアセントラル用）

アンケートは話し合いで決定した質問項目を配布できる形にまとめ、それをメーリングリストに流し、他の実習生からの意見をもとに修正した。コース承諾書は昨年度の資料を参考に作成し、メーリングリストで確認をとった。

### **II. 仕事の流れ**

文書作成係の仕事の流れを述べる。アンケートの目的や具体的な質問項目は、それぞれのアンケートについての項で取りあげる。

#### **【1年後アンケート及び紙面での事前アンケート】**

6月7日

アンケートの質問項目及び回答方法（記述式か選択式か）について全体で話し合った。

6月9日

話し合いをもとに日本語版を作成し、メーリングリストに流し、チェックを受けた。

6月10日～11日

修正した日本語版アンケートと、それを英語にしたものをメーリングリストに流した。

6月12日

アンケートを完成させ、渉外（外部）係に引き継いだ。

6月13日

アンケートを実施した（渉外（外部）係）。

### 【事後アンケート】

7月26日

アンケートの質問項目及び回答方法、質問の仕方について全体で話し合った。

7月28日

日本語版を作成し、メーリングリストに流した。事後アンケートは2種類作った。コース全体についてのアンケートと、パーティーについてのアンケートである。しかし、パーティーについてのアンケートは実施しなかった。

8月2日

英語版を完成させた。

8月19日

アンケートを実施した。

### 【コース承諾書】

7月28日

ビデオ撮影と費用についての承諾書を作成し、メーリングリストに流した。

8月2日

修正を加え、完成させた。JET用は8月5日のインタビュー時に持参し、アルティアセントラル用は渉外係に引き継いだ。JET用とアルティアセントラル用と2種類作ったが、違いは提出方法の手順だけである（その場でサインして提出するか、サインしたものをプリントアウトして持ってくるか）。

## Ⅲ. 反省点・注意点

「1年後アンケート及び紙面での事前アンケート」の作成期間が短かった。

英語版のアンケートをネイティブチェックをしてくれた協力者の積極的な協力がなければ、質問項目などについての話し合いから1週間弱で完成させることは難しかっただろう。コース全体の方針や各クラスの授業内容がある程度固まってから、アンケートについて話し合ったが、その時期が遅かった。学習者について、なるべく正確な情報を集める必要があるが、それを待っているだけでは何も進まないのも、一度形にしておいてから修正を加えるという方法で早めに取りかかるべきだった。

「1年後アンケート及び紙面での事前アンケート」について、質問項目及び回答方法（記述式か選択式か）を話し合ったが、実習生同士の認識が一致しないままで話が流れてしまった部分があり、文書としてまとめる際に困った。やるべきことが多い実習だからこそ、1つ1つの話を詰めていく必要があると実感した。また、アンケートを行なう場合には、どのように質問するか、という点も重要になってくるが、「1年後アンケート及び紙面での事前アンケート」ではその点についての認識も甘かった。「事後アンケート」作成時には、こ

の2点に注意したため、比較的スムーズに作ることができた。

・当初の予定ではパーティーで発表を行なう予定のクラスがあり、「パーティーについてのアンケート」も作成した。しかし、発表するクラスがなくなったため、パーティー後のアンケートは実施しなかった。「パーティーについてのアンケート」を作成したのは、コース開始前である。1年後アンケート作成の反省から日程に余裕を持たせた。コースが始まると毎日の授業の準備に追われるため、変更の可能性があったとしても作れるものは予め用意しておいたほうが良いと実感した。

<国沢・越賀>

## 2. 4. 備品・会計

### I. 備品

実習で使用する物品、機器の準備と管理を行った。具体的な活動内容を以下に述べる。

授業の準備や授業に必要な物品について、院生室に保管してある在庫を調べ、不足している物品一覧を作成した。不足物品一覧の物の他にさらに必要な物がないか実習生に確認し、挙げられた物を一覧表に加え、助手の先生に注文を依頼した。授業記録用のビデオテープは、全授業を記録するため 1 日 3 コマ×6 日間×4 クラス分必要だった。この他、研究レポートのための資料として、A クラスでは 2 台同時に録画する時間があり、この分のテープも必要だった。

コース開始前のインタビュー録音には、院生室と実習生個人の所有する IC レコーダーを使用し、CD にまとめ、実習生全員で共有できるようにした。

授業の録画には、院生室と実習担当の先生、実習生個人が所有するビデオカメラを使用した。院生室の三脚は、事前にビデオカメラがセットできるかを実際に確認しておく必要がある。8 ミリビデオカメラ用の三脚でも、デジタルビデオカメラと使用できるものがある。

実習終了後、大学に実習記録として保存するビデオは、各クラス 6 日間の中から 1 日を選択して、その日の全授業（3 コマ分）をそれぞれ 1 本の VHS にダビングした。

#### < 注意点 >

- ・ 学生による代金立替の制度がないため、個別に購入しないで助手の先生に購入していただくようにする。院生室の在庫を確認し、不足する分については早目に購入を依頼する。
- ・ 院生室の在庫や備品は、使用予定日に確実に使用できるように取り分けておくか、実習で使用する旨を周知する。
- ・ 各クラスで学習者に配布するテキスト、授業プリントは、共用のコピーカードを使用する。
- ・ 授業で使用する部屋に十分なホワイトボード用のペン、マグネットがあるか確認しておく。
- ・ 実習期間中の院生室の棚の鍵の保管方法を助手の先生と相談しておく。
- ・ 各クラスで作成したテキストやプリント、資料等をファイルに閉じて院生室に記録として残す。
- ・ 授業ビデオは、どの部分を大学に記録として残すかを実習担当の鷺見先生に相談する。

## 注文物品一覧

	用途	数量
画用紙（白四つ切）	教材作成	10 枚
マグネットシート	教材作成	10 枚
ガムテープ	教材作成	1 個
2 穴式ファイル	テキスト（学習者配布用 28、保存用 4 クラス×1） 教案・教材保存（4 クラス×1 冊）	36 冊
CD-ROM	インタビュー記録	2 枚
DVC ビデオテープ	授業記録	
マイクロカセットメモリ	授業記録	
半紙	A クラス習字用	1 袋

画用紙、DVC ビデオテープは在庫があったため不足分だけ注文した。

以下の物品は、実習で使用したが在庫があったため購入しなかったものである。来年度は必要に応じて購入する。

## 注文物品以外の使用物品

	用途	数量
クリアファイル	アンケート等保存・渉外資料保存	2 冊
2 穴式ファイル	メール保存	1 冊
見出し用シール	資料整理	1 袋
セロテープ	教材作成	1 個
VHS ビデオテープ	授業記録（個人／大学保存ダビング用）	10 本
墨汁	A クラス習字用	

画用紙はコース開始後に不足したため追加購入したが、急だったため助手の先生を通さずに実習費で購入した。画用紙等は余っても次年度の実習生が使用するため、多めに購入しておくが良い。

## II. 会計

大学で購入してもらう物以外に必要な物品、費用等のため、コースに参加する学習者と実習生から会費を徴収した。

### 1. 収入

項目	金額	備考
前年度繰越金	55	
受講者コース参加費	37500	25名×1500円
実習生会費	12000	8名×1500円
実習生追加徴収	5200	8名×650円
雑収入	18	
<b>合計</b>	<b>54773</b>	

受講者から徴収する参加費については承諾書が必要である。予め文書作成係に作成してもらい、受講生に周知した上で、コース初日にクラスごとに集金した。

### 2. 支出

項目	金額	備考
電話代	520	教育館、常滑遠足準備
交通費	6350	渉外教育館訪問、 インタビュー（2回）、常滑
コピー代	500	
コーヒー代	1180	教育館でのインタビューに不参加だった学習者に対し、後日喫茶店でインタビュー実施
領収証	98	
画用紙	234	最終日の分が不足したため
パーティー		
ピザ	24448	10枚
オーダブル	10000	4皿
飲み物	2968	ペットボトル10本
お菓子・紙コップ ペーパーナプキン・割り箸	2469	
ゲーム賞品（和菓子）	1260	4個
ネイティブチェック謝礼	4722	食事・図書カード
<b>合計</b>	<b>54749</b>	

### 3. 来年度繰越金

収入合計 54773 円－支出合計 54749 円＝24 円

- 最も費用がかかったのはパーティーの食費だったが、ピザもオードブルも大量に余ってしまった。
- 今年度の実習生には英語母語話者がいなかったため、学習者に実施したアンケートや配布書類のネイティブチェックを英語母語話者に依頼した。それが長時間に及んだため、実習後協力者にささやかな謝礼をした。
- 交通費は、上記の他にも常滑遠足の下見、遠足当日にもかかったが、全員が参加したため個人の実費として実習会計には算入していない。
- 電話代は、携帯電話の場合は1回30円、回線電話の場合は1回10円として換算した。

<長谷川>

## 2. 5. 書記

### I. 書記の業務及び記録内容

実習の本格的な計画段階（6月下旬）からコース実施までのコースの計画、実施、報告に関するミーティングの際に決定した事項や連絡事項を記録した。ミーティングの記録は、毎回実習用メールリングリストへ送信した。ミーティングの内容をまとめ、メールリングリストに載せることによって、実習生間で行ったミーティングの内容を再確認し、情報を共有することに役立った。重要事項の場合は、メールのタイトルに★マークをつけ、鷺見先生にも見ていただけるよう示した。

#### コース開始前のミーティングの記録内容

- ・ 5月13日ーニーズ調査、授業内容（タスク）の検討、渉外係の教育館訪問についての報告、会計の精算方法についての連絡、1年後アンケート・事前インタビューの質問事項の検討・実施日時の決定
- ・ 5月17日ー係の分担
- ・ 5月24日ー係の仕事内容の確認、MLの表記検討（★マークについて）
- ・ 6月7日ー1年後アンケート・事前インタビューの質問事項の検討、AETミーティング時（6月13日）に行うことを検討
- ・ 6月14日ークラス担当決定、新規学習者に対するニーズ調査の検討、アンケート集計係決定、コース・クラス目標の検討、コース日程の検討
- ・ 6月21日ー各係からの現状報告、各クラスからの進行状況報告、課外活動の検討
- ・ 6月28日ー各係からの現状報告、各クラスからの進行状況報告、課外活動日・全体反省会日の決定
- ・ 7月5日ーアルティアセントラル事前インタビューの流れ確認、備品の確認
- ・ 7月12日ークラス分け検討
- ・ 7月19日ー事前インタビューに参加できなかった学習者に対するインタビューの検討、JET事前インタビューの検討
- ・ 7月26日ー事後アンケートの検討、備品の確認、課外活動の検討

<河口>

## **2. 6. 報告書**

### **I. 報告書の形態**

実習の報告書は、名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻のウェブページ (<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/nichigen/>) から、教育実習の項目へのリンクが張られており、そこに 1998 年以降の実習報告書がリンクされている。

今回、実習報告書を作成するに当たって、これまで HTML で処理されていたものを PDF ファイル形式で載せることに決めた。その理由としては、HTML は環境によって随分と文書の配置が変わってしまい、報告書などの文書を載せる形態としてはふさわしいとは言えないことが挙げられる。また、実習前のミーティングで過去の実習の報告書をプリントアウトした際にも体裁に乱れが見られたため、使いづらかった。利便性という意味では、HTML 形式の方が優れてはいるが、PDF ファイルもかなり普及しており、大きな問題はないと判断した。

### **II. 担当箇所**

1 月の中旬に、報告書作成に関するミーティングを行い、実習生がそれぞれ相対的に深く関わった項目を分担して記述、自らの実習研究レポートと共に doc 形式に提出し、pdf ファイルへと変換した。以下に、担当箇所を挙げる。

春季教育実習：太田

概要：大島 渉外（外部）：稲田・太田 渉外（内部）：林

文書作成：国沢・越賀 会計・備品：長谷川 書記：河口

報告書：大島 調査（第一段階）：河口 調査（第二段階）：越賀

Aクラス報告書：長谷川・林 Bクラス報告書：河口・越賀

Cクラス報告書：大島・太田 Dクラス報告書：稲田・国沢

<大島>

### **3. 実習に向けた調査**

実習の準備に関しては、二段階に分けた。まず、AETの学習者が来日する前に行う調査を第一段階とし、来日後に行った調査を第二段階とした。

調査の第一段階としては、昨年度（2004年度）のコース参加者に対する1年後アンケート結果を分析し、そこから本年度の学習者のニーズ・レディネスを探った。さらに、その分析を基にして、参加予定の学習者に対してのアンケートを作り、それを実施した。

調査の第二段階では、第一段階で出た結果を基にして、参加者全員にプレースメントテストを実施して、第一段階で明らかになったニーズ・レディネスを更に詳しく調査した。

執筆担当者

調査（第一段階） 河口・越賀

調査（第二段階） 河口

<大島>

#### **3. 1. 調査（第一段階）**

本コースではクラス運営のしやすさを考慮し、ある程度の学習者数を確保するため、JETの参加を義務化する方針をとった。各調査、テストに携わった学習者の種類は次の通りである。

- a. 昨年度のコース参加者(Aクラス、Bクラス、Cクラス)
- b. 昨年度のコース不参加者
- c. 新規(今年度)参加者(アルティアセントラル、JET)

第一段階の調査のうち、1年後アンケートはaに該当する人、ニーズ・レディネス調査はa～c全員に対して実施した。第二段階の調査はcに該当する人に対して実施した。以下に各調査、テストの説明と、具体的な質問内容を提示する。bに該当する人には口頭で参加意志を尋ね、参加を希望する人にものみアンケートに答えてもらった。

##### **I. 1年後アンケート**

○目的

昨年度のコースに参加した学習者に対し、コースの中で役立つ学習項目、取り入れてほしかった項目等を尋ねた。ここから得られた意見を参考に本年度のカリキュラムデザインをより効率的に行うことを目的とした。

### ○調査方法、作成について

1年後アンケートは質問紙の形式をとった。昨年度のを参考に、回答、集計のしやすさを考慮し作成した。具体的には質問数を減らし、昨年の学習項目やアクティビティを思い出してもらうために、項目一つ一つを提示する等の工夫をした。さらに、昨年は A、B、C という 3 つのクラスがあったので、調査票も各クラスの学習者が答えやすいよう 3 種類の形式を用意した。

### ○質問内容の概要

質問内容を以下にまとめる。I では学習者自身について、II では昨年のコースについて、III では今年度のコースに参加する意志の有無を尋ねた。II ①の箇所が昨年受講したクラスにより 3 種類に分かれている。

#### A. 学習者自身について

- ①氏名
- ②国籍
- ③母語、第二言語、第三言語
- ④日本に滞在した期間(合計)
- ⑤「日本語能力試験」受験の有無(合格している場合その級も記入)
- ⑥1年間日本語を学習したか(機関、方法も記入)

#### B. 昨年度のコースについて

- ①役立った、有益だった学習項目(該当するものをチェック。具体的に説明)
  - A クラス
  - B クラス
  - C クラス
- ②昨年度のコースにあれば良かった項目

#### C. コース参加の意志について

参加する意志を YES か NO で

この後、1年後アンケートには、ニーズ・レディネス調査を付加した。参加の意志があると回答した学習者に対し、その場でニーズ・レディネス調査を実施しようと考えたためである。章末に実際使用した調査票(1年後アンケートの部分)を提示する。

## II. ニーズ・レディネス調査

上述した1年後アンケートの結果、a と b の AET は、本年度のコースに参加しないこと

が分かった。なおbのAETは参加意志を示したものの、最終的には辞退している。そのためニーズ・レディネス調査はアルティアセントラルとJETに対して行うこととなった。

調査の時点でJETの多くが来日していなかったため、質問紙による直接的な調査ができなかった。そこで、インターネットを利用したウェブ上のアンケート調査を実施することとした。ウェブによるアンケートの回収率は高く、全員の回答が得られた。自己申告された日本語レベルとレディネスを考慮し、この時点で学習者を大まかに4つのレベルに分類することができた。

#### ○目的

日本語クラスを運営する上で、学習者一人一人のニーズと日本語能力を適切に把握することを目的とした。この結果を基に、学習者の大まかな日本語レベルを予測し、学習者の背景を授業作りに役立てた。

#### ○作成について

当初質問紙形式を予定していたが、実際に実施した調査は全てウェブによる調査となった。質問紙で作成しておいた調査票に基づいてウェブ上に調査内容を掲載した。選択肢による質問と自由記述による質問を織り交ぜ、回答者が回答しやすいよう工夫した。

#### ○質問内容の概要

質問内容を以下にまとめる。Ⅰでは学習者のニーズについて尋ねた。また、日本語を学習する最終的な目標を選択してもらった。その他、日本滞在中の希望や個人的な趣味等を尋ねた。Ⅱでは自分自身の日本語レベル(主に文字について)を申告してもらい、受講するクラスで焦点を当てて欲しい分野を選択してもらった。

#### A. 学習者のニーズについて

- ①最終的に到達したい日本語レベル(「サバイバル」レベルから「母語話者並み」レベルまでの選択式)
- ②日本語を必要とするシチュエーション
- ③日本滞在中にしたいこと
- ④興味をもっていること、趣味
- ⑤課外授業でしてみたい活動

#### B. 学習者の日本語能力とコースで扱って欲しい項目(選択式)

- ①日本語会話レベル  
(初級・中級前半・中級・中級後半・上級)
- ②ひらがな運用レベル

(読み書きともできない・読めるが書けない・読み書きともできる)

③カタカナ運用レベル

(読み書きともできない・読めるが書けない・読み書きともできる)

④漢字読みレベル

(全く読めない・公共標識程度の漢字・新聞程度の漢字)

⑤漢字書きレベル

(全く書けない・非公式の文書程度の漢字・エッセイ執筆程度の漢字)

⑥授業中使用する文字

(ひらがな、カタカナとも使用・ローマ字のみ使用)

⑦最も重要だと思われる項目

(漢字学習は不要・読みの学習・書きの学習)

⑧授業で焦点を当てて欲しい項目 (複数回答可)

(文法練習・語彙・表現練習・会話練習・書く練習・その他)

以下に質問紙の状態配布した実際の調査票を提示する(ウェブによる調査票は 2005 年度日本語教育実習のトップページからのリンクを参照。ウェブの調査票には質問紙と一部異なる項目も含まれる)。

<河口・越賀>

【資料：1年後アンケートの提示例(昨年のAクラス参加者用)】

## Questionnaire

This questionnaire is solely for the purpose of organizing the AET Japanese program 2005 at Nagoya University. We will not use the results of this survey for any other purpose. Please answer the following questions as per the given guidelines. Thank you for your co-operation.

### I. About yourself:

- ① Name:
- ② Nationality:
- ③ Mother-tongue:  
Second language (if any):  
Third language (if any):
- ④ How long is your total period of stay in Japan?  
\_\_\_\_\_ year(s) \_\_\_\_\_ month(s)
- ⑤ Have you taken the Japanese Language Proficiency Test? Please check  whichever applicable. If yes, please give details what level and in which year you took the test.  
 Never taken                       Taken but did not pass (Grade:                      Year:                      )  
 Passed (Grade:                      Year:                      )
- ⑥ Please mention any other Japanese test you have taken (if any).

⑦ Have you studied Japanese during the past one year? If “yes” please fill in the details about where and how you studied.

Yes →

No

## II. About the AET Japanese program in the preceding year (2004)

① After completion of the previous year’s course, did you find the topics covered in class useful in your daily life? Check the relevant boxes only, and **give details** of how that particular item was useful to you.

Class A (absolute beginners):

Self-introduction

Reading Hiragana and Katakana

Basic grammar: ~mashita, ~masen deshita, ~tai

Practice expressions: Greetings, Making a telephone call

Shopping activity

Japanese Day

Farewell Party

② What other things would you have liked to be included in this course?

## III. About your intention to participate in this program

Are you planning to join the AET Japanese course for the academic year 2005?

Yes



Answer question IV and the following questions as well.

No



The questionnaire ends here. Thank you for your co-operation.

#### IV. About your needs:

- ① What is the ultimate level of Japanese language proficiency you are aiming for in future? Check any one of the following:

- |            |        |  |
|------------|--------|--|
| Nativelike | ↑<br>↓ | <input type="checkbox"/> Ex. Use Japanese at work                                  |
|            |        | <input type="checkbox"/> Ex. Communicate with people around you in your daily life |
|            |        | <input type="checkbox"/> Ex. Converse with friends                                 |
|            |        | <input type="checkbox"/> Ex. Minimum level to avoid daily hassles                  |
| Survival   |        | <input type="checkbox"/> Ex. Greet people  |

- ② What are the situations when you feel that you need to know and use Japanese?
- ③ What are the things you want to do during your stay in Japan?  
Ex. Climb Mt. Fuji, read comic-strips (Manga), talk to Japanese friends
- ④ What are your interests/hobbies?  
Ex. Sports, game, fashion, music etc.
- ⑤ We plan to include off-campus activities in the course. What activities would you like to take part in?  
Ex. Tour a car manufacturing factory.

#### V. About your Japanese language ability and things you want to cover in this course.

- ① Choose your spoken Japanese language ability from one of the following:  
 beginner       semi-intermediate       intermediate  
 intermediate-advanced       advanced
- ② Choose your Hiragana using proficiency level.  
 can neither read nor write       can read but not write       can do both
- ③ Choose your Katakana using proficiency level.  
 can neither read nor write       can read but not write       can do both
- ④ Choose your Kanji reading proficiency level.  
 can not read at all       can read Kanji's used for public signs  
 can read Kanji's used in Japanese newspapers
- ⑤ Choose your Kanji writing level.  
 can not write any Kanji       can write simple Kanji's used in informal letter writing  
 can write essays using Kanji
- ⑥ Do you want Hiragana and Katakana to be used in class?  
 use Hiragana and Katakana       use only roma-ji (roman alphabets)

⑦ Which of the following do you think is the most important to you:

- do not want to study Kanji's     mainly learn to read  
 mainly learn to write

⑧ Which of the following do you want to focus on most? Choose any one.

- grammatical explanations     vocabulary     practice grammatical patterns  
 conversation practice     writing practice  
 Others (specify: \_\_\_\_\_ )

This is the end of the questionnaire.

Thank you very much for patiently answering all the questions.

## **3. 2. 調査（第二段階）**

### **I. プレースメントテスト**

第二段階の調査は、実際に学習者が来日してからクラス分けを行うためのプレースメントテストのことを指す。

まず、WEB アンケートをもとに大まかにクラス分けを行った。アルティアセントラルは7月11日に行い、AETは2グループに分かれて来日することになっていたため、全員がそろった研修日（8月5日）に、教育館で行った。AETへのインタビューは、実習生全員がクラスごとに分かれ、異なるクラスの担当者が一緒に一人の学習者をインタビューした。（A、A&B、B&C、C&Dの4つに分かれ、ボーダーを見極められるよう試みた。）インタビュー内容、クラス判断基準はあらかじめメーリングリストで流し情報を共有しておいた。

このプレースメントテストは、学習者のニーズを直接聞くことができたり、学習歴がほとんどないと答えた人の中にも個人的に少し勉強している人がいることがわかったりなど、学習者を知るという意味では極めて有意義な機会となった。

各クラスのインタビューの内容、方法、判断基準などは以下の通りである。（メーリングリストの記述をまとめたものである。）

### **A クラス**

#### ①文字（ひらがな・カタカナ）

1. 五十音表を使って、ランダムに指した字を読んでもらう。
2. 文字のフラッシュカードを使用して、書いてある字を読んでもらう。

#### ②会話

1. 自己紹介：名前、出身、趣味、休日の過ごし方等
2. 日本：日本、日本の食べ物についての感想
3. 食事に誘う：都合、何が食べたいか等

まず、自己紹介がどのくらいできるのかをみる。YES/NOで答えられる質問だけでは、実際の理解の程度が曖昧になってしまうので、オープンクエスチョンを織り交ぜながら、自然な会話で進めていく。文字がまだ不十分なことと、先のようなトピックを使って、ゼロ初級段階での会話の理解と発話がどのくらいのレベルなのかということを見ていく。

### **B クラス**

#### ①初級文型項目

インタビューシートの質問は順に難易度を高くした。AとBの方では、前半の項目を丁寧に聞いていき、そこから会話に発展させていく。CとDの方では、後半の項目を中心に聞いていく。前半はできると仮定し、テンポよく進める。

(一部抜粋)

**B クラス 口頭 PT インタビューシート 1**

- 1) お名前は何ですか。
- 2) 日本語はどうですか。{難しいですか。/やさしいですか。}
- 3) (ボールペンを見せて) これは何ですか。
- 4) これはあなたのですか。
- 5) ~さんの国は今、{暑いですか。/寒いですか。}
- 6) {スポーツ/音楽} が好きですか。

はい→どんな {スポーツ/音楽} が一番好きですか。

いいえ→~さんは何が好きですか。

○ : 答えが言える    △ : 簡単な言葉での言い直し、説明、英語使用で答えが言える

× : 答えが言えない    E : 英語使用

②文字

ひらがなが読めるかチェックする。すらすら読めたら「ひらがなができる」とし、Bクラス以上と判断する。(Bクラスの授業では「書く」を重視しないので、ここでは読むことだけチェックする。)

**B クラス 口頭 PT インタビューシート 2**

Please read 4 sentences.

タモリさんは ABC の べんごしです。

ことしの 6 がつに ひとりで にほんに きました。

Tamori-san no kaisha wa Nagoya Eki no chikaku ni arimasu.

Shigoto wa getsu-yobi kara kin-yobi made desu.

以上 2 種類の方法で、初級の文法をどの程度理解しているか、会話を発展させられる力(文法レベル、性格も含めて総合的に)、文字知識があるかを測る。基本的に、ゼロレベルではない人、かつ、Cクラスではないと判断された人、またひらがなが読める人を B クラスの対象とする。

**C クラス**

①学習者のレベル判断

「初級文法」をどの段階まで、概念として持っているかをチェックする。インタビューでは以下の 4 項目を確認する。

1. 日本語学習歴 (何年/何ヶ月)
2. どこで、学習したか (独学か、しっかりとした学校・機関か、プライベートか)
3. 教科書は何を使ったか

4. 教科書（通常初級は2冊）のどこまで学習したか  
更には、フリートークをしながら、インタビュー側の質問に確認項目を織り交ぜ、学習者が理解できているかを見る。

## ②学習者の適性判断

以下の項目を交えたフリートークをしながら、学習者のやる気、学習に対する姿勢を見る。

1. 何を学習したいか（苦手項目／希望項目）
2. どんな風に学習したいか（ex.会話中心／文法をしっかりと）
3. 何を学習したくないか

どの位、どのように学習してきて、どんな状態にあるか、どんな学習の方法、授業のあり方を望んでいるか、など学習者の日本語学習への取り組み方、性格を見る。

## Dクラス

### ①ニーズ調査

学習歴や日本語が必要だと感じる場面など、一般的なことを自由に聞く。話すことだけでなく、読むこと、書くことなどについてもつつこんで聞く。

### ②ロールプレイカード（依頼の表現）

依頼表現がどのくらいできるかを見る。上手な人には、「そんなこと言われても困るんだよなあ」と少しいじわるをする。

<p>ちゅうがっこう はたら あなたは中 学 校で働 いているAETです。</p> <p>らいしゅう かようび じゅぎょう ひ りょうしん にほん あそ 来 週の火 曜 日に授 業がありますが、その日に両 親が日 本に遊 び</p> <p>く なごや あんない おも に来るので、名古屋を案 内したいと思 っています。</p> <p>じゅぎょう やす おも あなたは授 業を休 みたいと思 っています。</p> <p>こうちょうせんせい ねが 校 長先 生に願 いしてください。</p>
---

③文法クイズ

中級に入る前までに勉強する文法項目をチェックする。半分以上はできて欲しい。  
(一部抜粋)

いちばん  
一 番いいものを1～4の中 <sup>なか</sup> からひとつ選 <sup>えら</sup> んでください

1. <sup>あめ</sup> 雨 が (                      )、<sup>およ</sup> 泳 <sup>い</sup> ぎに行きます。

1. <sup>ふ</sup> 降っても      2. <sup>ふ</sup> 降ったら      3. <sup>ふ</sup> 降らないで      4. <sup>ふ</sup> 降らなくて

2. <sup>たなか</sup> 田 中さんに (                      )、これを渡 <sup>わた</sup> してください。

1. <sup>あ</sup> 会えば      2. <sup>あ</sup> 会ったり      3. <sup>あ</sup> 会ったら      4. <sup>あ</sup> 会うと

3. <sup>にもつ</sup> 荷 物が多 <sup>おお</sup> すぎて、かばんに全 <sup>ぜんぶ</sup> 部 (                      )。

1. <sup>はい</sup> 入 ります      2. <sup>はい</sup> 入 りません      3. <sup>い</sup> 入れます      4. <sup>い</sup> 入れません

4. <sup>たなか</sup> 田 中さんが傘 <sup>かさ</sup> を (                      ) ました。

1. <sup>か</sup> 貸してくれ      2. <sup>か</sup> 貸していて      3. <sup>か</sup> 貸してもらい      4. <sup>か</sup> 貸させ

5. <sup>わ</sup> 分からないことがあると、いつも先 <sup>せんせい</sup> 生に (                      )。

1. <sup>おし</sup> 教 えられます      2. <sup>おし</sup> 教 えてくれます      3. <sup>おし</sup> 教 えてもらいます

4. <sup>おし</sup> 教 えさせます

以上のインタビュー内容をもとにプレースメントテストを実施し、結果をクラス分けの  
目安にした。音声はCDに記録し実習生で共有した。

<河口>

## **4. 実習の実施**

最後に実習そのものに関する報告をする。A、B、C、Dの各クラスを担当した実習生が、実際の活動に基づいた各クラスの報告書をまとめている。Aクラス、Bクラス、Cクラス、Dクラスと続き、次には8月13日に実習中の課外活動として行われた常滑への遠足、実習の最終日に行われたフェアウェル・パーティー、最後に実習後に学習者に対して行われた事後アンケートの結果に関する報告である。

執筆担当者

Aクラス	長谷川・林
Bクラス	河口・越賀
Cクラス	大島・太田
Dクラス	稲田・国沢
遠足	長谷川
フェアウェル・パーティー	稲田

<大島>

### **4. 1. Aクラス**

#### **I. 担当実習生**

長谷川紀子・林真紀

#### **II. クラス目標**

Aクラスの目標は、「日本で生活するのに必要となるサバイバル日本語の習得」とした。Aクラスの学習者は、ほぼ日本語学習経験が無く、生活に必要な語彙、表現を習得し、実際場面で使用できるようになることが必要だと考え、目標とした。また、日本での生活で遭遇するだろう場面に、コースの中で予め触れておくことで、学習者の日本の生活や日本語使用に対する負担を軽減できるようにすることができると考えた。

#### **III. 学習者**

Aクラスには6名の学習者が在籍した。夏季教育実習の日本語コースに参加した学習者には、JETプログラムによって来日したALTと、民間会社アルティアセントラル所属のALTがいたが、Aクラスに参加した学習者はすべてJETプログラムによって来日した新規のALTだった。JETプログラムで来日した新規ALTは、本コースへの参加が義務付けられていたため、出席率は非常に高かった。

学 習 者	国 籍	性 別	学 習 暦	滞 日 期 間	参 加 日
A	アメリカ	女	0	0	全日
B	イギリス	女	0	0	全日
C	イギリス	女	0	0	全日
D	イギリス	女	0	0	全日
E	イギリス	男	1ヶ月	0	常滑遠足以外全日
F	カナダ	男	0	0	全日

#### IV. 学習者のニーズ・レディネス

学習者のニーズとレディネスの調査は、来日前に E メールで行った事前アンケートと、来日後のプレースメントテストにて行った。

事前アンケートの結果、レディネスについては学習者 E のみが 1 年間の日本語学習経験があるとのことだったが、その他の 5 名については学習経験が皆無だった。ニーズについては、焦点を当てて欲しい内容として会話を挙げた学習者が多かった。日本語学習の最終目標としては、目標の低い順に、挨拶ができる程度、友達とおしゃべりを楽しめる程度が各 1 名、日常生活がこなせる程度、仕事で使用できる程度が各 2 名だった。

来日後のプレースメントテストは、事前アンケート実施時期からの期間が空いたため、その間に学習者が日本語学習を進めている可能性があると考え、名前や出身を尋ねる等の簡単なやりとりを行う中で学習者の既習の表現を明らかにした。また、50 音表を用いてひらがなとカタカナが読めるかを確認した。その結果、学習者 B と E はごく簡単な自己紹介ができ、ひらがなをいくつか読むことができた。しかし、他の学習者は全く日本語でやりとりができず、日本語学習は開始していなかったようだった。

## V. シラバス

	9:30	10:30	11:30	12:20	
8月10日(水)	オリエンテーション ひらがな(発音の練習) 林		自己紹介  長谷川		
8月11日(木)	ひらがな① (あ~そ) 長谷川	注文(1) 指示語 林	数① (数字・価格) 長谷川	注文(2) 林	昼食 (大学付近の ファストフード店にて)
8月12日(金)	電話(1) 体調を表す表現 林	ひらがな② (た~も) 林	電話(2) Vたい・理由 長谷川		
8月17日(月)	ひらがな③ (や~ん) 林	数② (時間・日にち) 林	スケジュール確認  長谷川		
8月18日(火)	ひらがな④ (は・ば・ぱ,他) 長谷川	場所をたずねる 林	買い物(大学内の生協にて)		
8月19日(水)	誘う(1) 勧誘表現・誘いを受ける 長谷川	習字	誘う(2) 誘いを断る 林	フェアウエル パーティー	

## VI. テキスト編纂

2002年度、2003年度に作成、使用されたゼロ初級クラスのテキスト『すいか』を改訂し、『ひまわり』を作成した。『ひまわり』作成の方針として、毎日の授業で学習する内容は全てテキストに記載し、授業で取り上げない項目はテキストに含めないことにした。その際、学習者に合ったレベルの内容にすること、テキストのモデル会話をより自然なものに近づけることに注意した。テキスト中の英語での解説については、英語母語話者にネイティブチェックを依頼した。

シラバス、カリキュラム、テキストの作成は、事前アンケート実施後に開始した。実際に学習者に会ってインタビューする前に行わなければならなかったが、ゼロ初級の場合は学習者のレベルが決まっているため取り掛かりやすかった。

## VII. クラス内容

2005年8月10日	1限目	担当：林
学習事項		
オリエンテーション ひらがなの発音 教室用語		
授業の流れ		
① 自己紹介(名前のみ)、カリキュラムの説明 ② ローマ字で「かな」の発音練習 ③ 教室用語の紹介		
反省		
初日ということで緊張している様子であったが、教師の話非常に集中して聞いていた。ひらがなの発音は、口が回りにくく、なかなか上手くできない学習者もいた一方で、学習済みだった学習者は、終始退屈そうだった。このレベル差を解消する工夫が必要であろう。読みの練習の為だけにとまって用意してきた語や文の意味への関心が予想以上に強く、時間をとってしまった。語の意味でなく、読みをたくさん練習してもらう為には、予め意味を記したプリントを後で配布する等の改善が必要であろう。		

2005年8月10日	2限目	担当：長谷川
学習事項		
自己紹介（多数の前での発表形式） 名詞文「Nです」「Nですか」「Nじゃありません」		
授業の流れ		
① 自己紹介（名前・出身・職業）、挨拶「よろしくお願ひします」 ② 質問・否定 ③ 人物の名前を質問、確認するタスク		
反省		
日本語を少し学習した学習者にとっては簡単だった様子。一方で、日本語の発音自体に慣れていない学習者もいて、ゼロ初級とは言っても多少差があることがわかった。自分自身の落ち着きが足らず、導入の順番を一部誤ってしまった。学習者も授業の進め方がわからなかったためか、多少雰囲気堅かった。		

2005年8月10日	3限目	担当：長谷川
学習事項		
自己紹介（1対1の会話形式） 「こちらこそ」「ご出身は」「そうですか」「どちらですか」、名刺交換		
授業の流れ		
<ul style="list-style-type: none"> <li>① モデル会話を数パートに分けて提示</li> <li>② クラス内で名刺交換の方法を確認し、自己紹介と併せて練習</li> <li>③ Bクラスの学習者、教師と自己紹介をし合うタスク</li> </ul>		
反省		
<p>授業開始時に、授業の最後に B クラスのメンバーと自己紹介をし合うことを伝えると反応が大きく、動機が高まったようで、練習はみな熱心だった。スムーズに進み、雰囲気も和んだ。B クラスとの自己紹介のタスクが盛り上がり、学習者も達成感を得られたようだった。</p>		

2005年8月11日	1限目	担当：長谷川
学習事項		
ひらがな「あ」～「そ」		
授業の流れ		
<ul style="list-style-type: none"> <li>① ローマ字復習</li> <li>② 行ごとに読み、書き順を導入、フラッシュカードで練習</li> <li>③ あ行からさ行までの 15 文字全てを用いて読みの練習</li> <li>④ ひらがなビンゴ</li> </ul>		
反省		
<p>いろいろな練習を行うことができたが、学習者はもっと書く練習もしたそうだった。最後のビンゴは、皆楽しんでいたので盛り上がった。</p>		

2005年8月11日	2限目	担当：林
学習事項		
<p>こ（れ）・そ（れ）・あ（れ）  Nはなんですか  Nをおねがいします・ください  N1とN2  飲食物に関する語彙</p>		
授業の流れ		
<p>① 「こ」「そ」「あ」の使い分けの導入、練習  ② レアリアを用いて、「指示詞+なんですか・ください・お願いします」の練習  ③ 絵カードで、飲食物に関する語彙の導入</p>		
反省		
<p>初めはあまり理解していない様子であったが、練習を繰り返すうちに適切に使えるようになっていった。ペアワークが多すぎて、各学習者の話す機会が少なくなってしまう、自分の番以外は暇そうにしていた。単調にならないように活動の仕方を工夫する必要がある。使用するレアリアや物が多すぎたので、教師自身が混乱してしまった。十分整理して、段取りよく進行しなければならなかった。</p>		

2005年8月11日	3限目前半	担当：長谷川
学習事項		
<p>数字0～10、100、1000  金額を尋ねる</p>		
授業の流れ		
<p>① 0～10を導入、練習  ② 100の位、1000の位の数  ③ 「いくらですか」  ④ ペアで値段を尋ね、答えるタスク</p>		
反省		
<p>数字は、学習者が予想以上に知っていたこと、授業時間が予定より短くなったことから、導入も練習も一通り簡単に行っただけでタスクに移った。しかし、やはり確認と練習はもう少しきちんとして行った方がよかったように思う。</p>		

2005年8月11日	3限目後半	担当:林(長谷川)
学習事項		
注文の仕方、タスク		
授業の流れ		
① 実際のオーダーシートを使用して、注文の仕方を練習 ② 学校付近のファストフード店にて注文、昼食。		
反省		
<p>授業で、教師が店員役となり、ファストフード店での実際の流れを何回も練習したことで、実際の注文場面での緊張感や不安感が減少できたのではないだろうか。ただし、時間配分を失敗し、全体的に教師の落ち着きがなかった。もっと学習者の様子に配慮できるよう、冷静さや余裕を持たなければならなかった。</p> <p>ファストフード店でのタスクにおいて、各学習者は自分の食べたいものを注文することができ、満足している様子であった。昼食をとりながら会話をすることで、教師と学習者のよい交流の場ともなった。</p>		

2005年8月12日	1限目～2限目前半	担当:林
学習事項		
電話に関する表現、電話番号の聞き取り、形容詞、ひらがな「た」～「も」		
授業の流れ		
① 絵カードで、電話場面と表現方法を導入 ② 電話での会話を代入ドリルで練習 ③ 電話番号の聞き取り練習 ④ 絵カードで形容詞の導入、練習 ⑤ 前回(「あ」～「そ」)の復習をした後、ひらがな表とフラッシュカードで練習 ⑥ 既習のひらがなを用いてカルタゲーム		
反省		
<p>コーラスや会話練習に積極的に参加していた。前回、数字を学習したので、復習をかねて電話番号の聞き取りを行ったが、数字の聞き取りはやはりまだ困難な様子だった。救急車や警察の番号を紹介すると熱心にメモをとっており、自分の生活に関することを授業に用いることで、興味や関心を高められたのではないだろうか。</p> <p>カルタを用いて「ひらがなばばぬき」をしたが、学習者全員非常に楽しそうだった。ただし、時間や人数を考慮して、カードを減らす等の工夫をした方がよかった。</p>		

2005年8月12日	2限目後半～3限目	担当：長谷川
学習事項		
<p>病気で学校を欠勤することを電話で伝える  動詞文「～をV」「～にV」、「Vたいです」「Vたいんですが」  「大丈夫ですか」「お大事に」  電話の表現「もしもし」「失礼します」</p>		
授業の流れ		
<p>①「大丈夫ですか」「お大事に」  ②動詞文「～をV」「～にV」  ③希望「Vたいです」、理由＋言いさし表現「～のでVたいんですが」  ④電話会話をモデルに沿って練習  ⑤電話をかけて欠勤を伝えるロールプレイ（内線電話使用）</p>		
反省		
<p>たくさん動詞を導入し、少し長いモデル会話を練習した。練習は段階的に十分に行えたため、ロールプレイは全員成功し、学習者は自信を持つことができたようだった。練習用の教材も適切に作ることもできたと思う。</p>		

2005年8月17日	1限目	担当：林
学習事項		
<p>復習「た」～「も」  ひらがな「や」～「ん」</p>		
授業の流れ		
<p>①フラッシュカードで前回のひらがな（「た」～「も」）の復習  ②「や」～「ん」の導入、練習  ③パズルを用いて、ひらがなの総復習</p>		
反省		
<p>「ら行」の発音に困難さを感じている様子であった。やはり、初回の発音の練習で、しっかりと練習するべきであろう。パズルは全員楽しく、積極的に取り組んでいた。プリントを見て確認しながらでない不安な学習者がいたが、他の学習者も、時々その学習者にアドバイスするなどして、ペースに合わせて進めていた。</p>		

2005年8月17日	2限目	担当：林
学習事項		
時間・日にち・曜日の表現		
授業の流れ		
④ 時計と数字マグネットを使用し、時間の導入、練習		
⑤ カレンダーと語呂合わせ文で、日にち、曜日の提示		
反省		
<p>「時間表現」に時間をかけすぎ、単調になってしまった印象がある。特に本実習の学習者においては、練習方法や活動に変化を与えるなどして、集中力をきらさない工夫が必要だったと思われる。</p>		

2005年8月17日	3限目	担当：長谷川
学習事項		
過去「Vました」		
確認の文末の「ね」		
聞き返し		
授業の流れ		
① 動詞復習、新出語導入		
② 過去「Vました」		
③ 確認の「ね」、会話練習		
④ タスク（最終日のパーティーに必要な物の個数を担当実習生に確認する）		
反省		
<p>学習者は既習の動詞を予想以上によく記憶していた。「Vました」の練習で時間を使いすぎてしまい、会話練習が十分にできないままタスクを行わなければならなくなった。タスクは結果的には成功したが、練習が中途半端なままタスクに入ったので、学習者の自信には必ずしもつながらなかったと思う。</p>		

2005年8月18日	1限目	担当：長谷川
学習事項		
ひらがなの直音以外全て（濁音、半濁音、拗音、促音、長音）		
授業の流れ		
<ul style="list-style-type: none"> <li>① ひらがな直音復習（ひらがなレース）</li> <li>② 濁音</li> <li>③ 半濁音</li> <li>④ 拗音</li> <li>⑤ 促音</li> <li>⑥ 長音</li> <li>⑦ 街の中のひらがな表記の看板、表示を読む練習</li> </ul>		
反省		
<p>学習項目が多すぎた。直音をきちんと覚えていた学習者はあまり混乱することなく取り組めたようだったが、直音があやふやなままだった学習者はかなり混乱していたようだった。最後まで「難しい」という印象が拭えないまま終わってしまった。</p>		

2005年8月18日	2限目	担当：長谷川
学習事項		
<p>ここ、そこ、あそこ、どこ 存在文「います」「あります」</p>		
授業の流れ		
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 存在文</li> <li>② ここ、そこ、あそこ</li> <li>③ ～はどこですか</li> <li>④ 会話練習</li> </ul>		
反省		
<p>「これ、それ、あれ」が導入済みだったので、スムーズに導入、練習を行うことができた。学習者も積極的に練習に参加してくれた。</p>		

2005年8月18日	3限目	担当：林
学習事項		
位置を表す語彙 XはYの～です		
授業の流れ		
<p>① 位置を表す語彙「上・下・右・左・前・後ろ～」を提示 ジェスチャーを交えて提示、練習</p> <p>② 「XはYの～です」 教室内のものを使用して位置関係の表し方を提示、練習。シートで練習。</p> <p>③ 買い物場面でのダイアログ練習</p> <p>④ インフォメーションギャップのタスクシートを使用して、会話練習</p> <p>⑤ 大学内の生協で買い物タスク</p>		
反省		
<p>教師のジェスチャーが不明確になってしまった時があった。位置を表す練習は、予めたくさん準備していたのだが、時間の関係上かなり省いた。しかし、学習者はよく理解している様子であった。インフォメーションギャップのタスクは、少し複雑であったので、混乱するかもしれないと心配していたが、始める前に教師で具体的なやり方を例示したので、スムーズに行え、タスクに活発に取り組んでいた。最後に行った大学生協での買い物は、実践的であり、学習者にとっても満足度の高いものとなったのではないだろうか。ただ、教室で行った学習項目よりも容易な会話で達成できてしまったり、自分で既に見つけてしまったものの場所を従業員に聞くなど、オーセンティックではない場面もいくつかあった。もう少し、彼らにとってチャレンジングなタスク内容になれば、より有意義であったと思われる。</p>		

2005年8月19日	1限目	担当：長谷川
学習事項		
<p>勧誘の表現  「Vません」「Vませんか」「Vましょう」  「いいですね」「ぜひ」</p>		
授業の流れ		
<p>① 新出語彙導入（今日・明日等、動詞）  ② 「Vませんか」  ③ 「いいですね」「ぜひ」  ④ 「Vましょう」  ⑤ 会話練習</p>		
反省		
<p>新出語彙リストを作ったことで学習者がノートをとる時間を短縮できた。一つ一つの項目の導入、練習はよかったが、最後の会話はあまり盛り上がらなかった。導入や練習方法がこれまでの会話練習と同様だったため、学習者が飽きてしまったのではないかと思う。</p>		

2005年8月19日	2限目前半	担当：長谷川・林
学習事項		
習字		
授業の流れ		
①学習したひらがなを用いて、各自好きな言葉を毛筆で書く。		
反省		
<p>毛筆体験自体に非常に興味を示し、各自、活発に文字を書いていた。学習者間で時間のかけ方がかなり異なり、終盤にかけて集中力がなくなっている学習者もいた。</p>		

2005年8月19日	2限目後半	担当：林
学習事項		
疑問詞の復習 断り方の表現		
授業の流れ		
① 疑問詞の確認 「なんですか」「いくつですか」「いくらですか」 「なんじ」「なんようび」		
② 断り表現 ダイアログを発展させ、「～があるので…」「～はちょっと…」を使って断る練習		
反省		
<p>疑問詞の復習で、反応が予想よりよくなかったので、時間をかけてしまった。断る時の言いよどみの部分に興味をわいた様子で、大変感情をこめて言っていた。少し不自然すぎる印象もあった。</p> <p>疑問詞の部分に時間をかけすぎたことが原因で、準備していた「誘いをうける・断る」のタスクを行えず、理解ができたかどうかの確認を行うことができなかった。授業のポイントがずれてしまったことが最大の反省点である。</p>		

## VIII. 授業後アンケート

### VIII-1. アンケート概要

Aクラスでは、以下のような質問項目を設け、授業後アンケートを行った。尚、「3」～「6」に関しては、実習生の個人研究テーマの為に設けられたものである。

作成するにあたっては、学習者の負担とならないよう、簡潔でわかりやすいものを作成することを目指した。そこで、前年度の各クラスの授業後アンケートを参考に、授業の満足度、内容構成、教師に関する質問項目を設定し、次回の授業へ生かす反省材料とした。

	いいえ ←	1	2	3	→	はい
1. 今日の授業に満足しましたか。		1	2	3		4
→満足した点( )						
→不満な点( )						
2. 今日の授業内容を理解できましたか。		1	2	3		4
→「理解できなかった」場合は、何が理解できなかったのか教えてください。						
( )						
3. 今日のタスク活動はうまくいったと感じますか。		1	2	3		4
→その理由( )						
4. 実際の生活でも、(タスクと)同じ事を行う自信がありますか。		1	2	3		4
5. 日本語を勉強するのに、ひらがなの勉強は必要だと思いますか。						
いいえ						はい
6. ひらがなを勉強したいと思いますか。						
<input type="checkbox"/> いいえ						<input type="checkbox"/> はい
→ <input type="checkbox"/> 「読み」のみ						<input type="checkbox"/> 「読み」と「書き」
7. (授業内で)話す機会がありましたか。						
少ない						多い
あまり多くない						
8. ( // )考える時間が十分にありましたか。						
ない						多い
あまり多くない						
9. ( // )教師の話すスピードは。						
早すぎ						遅すぎ
適切						
10. ( // )無駄と思われることはありましたか。						
はい						いいえ
→いつ( )						

## VIII-2. アンケート結果

以下は、実習生の研究テーマ用の質問項目を除いた授業全体に関わる評価についてのアンケートの結果である。表の中の数字は、評定の数値である(いいえ← 1 2 3 4→はい)。

8月10日(水)	評価	具体的な点・理由
1 満足度	3…4人 4…2人	満足→自己紹介、Bクラスとのタスク 不満→ローマ字、かなは既習、もっと文法的な説明がほしい
2 理解度	3…1人 4…5人	助詞「は」の役割がわからない 理解に時間がかかったが、最終的にはわかった
7 話す機会	多い…6人	
8 考える時間	あまり…2人 多い…4人	
9 教師の話す早さ	適切…6人	
10 無駄なこと	ある…1人 ない…5人	自己紹介・かなは既習
8月11日(木)	評価	具体的な点・理由
1 満足度	3…2人 4…4人	満足→実践的、学習と実践のバランスがいい、楽しかった 不満→ひらがなの進度がはやい
2 理解度	3…1人 4…5人	ひらがなをもっと自分で学習する必要があると思う
7 話す機会	多い…6人	
8 考える時間	多い…6人	
9 教師の話す早さ	適切…6人	
10 無駄なこと	ある…1人 ない…5人	ひらがなは既習
8月12日(金)	評価	具体的な点・理由
1 満足度	3…1人 4…5人	満足→とても楽しかった
2 理解度	2…1人 4…5人	理由の述べ方、助詞の使い分けがわからない
7 話す機会	多い…6人	
8 考える時間	あまり…1人 多い…5人	
9 教師の話す早さ	適切…6人	
10 無駄なこと	ない…6人	

8月17日(水)	評価	具体的な点・理由
1 満足度	2…1人 3…4人 4…1人	満足→ひらがな、過去形 不満足→タスクシートの理解に時間がもう少し必要だった
2 理解度	3…3人 4…2人 無記入…1人	時間・日にちの言い方が難しい
7 話す機会	多い…6人	
8 考える時間	あまり…2人 多い…4人	
9 教師の話す早さ	適切…5人 早すぎ…1人	
10 無駄なこと	ない…6人	
8月18日(木)	評価	具体的な点・理由
1 満足度	2…1人 3…1人 4…4人	満足→場所の聞き方 不満足→ひらがなにかける時間が十分でない
2 理解度	2…2人 3…1人 4…3人	ひらがなが難しい 「あります」と「です」の違いがわからない
7 話す機会	多い…6人	
8 考える時間	ない…1人 あまり…2人 多い…3人	
9 教師の話す早さ	適切…6人	
10 無駄なこと	ない…6人	
8月19日(金)	評価	具体的な点・理由
1 満足度	4…6人	満足→とても明確で楽しかった とても役立つものだった
2 理解度	4…6人	
7 話す機会	多い…6人	
8 考える時間	多い…6人	
9 教師の話す早さ	適切…6人	
10 無駄なこと	ない…6人	

不満な点を具体的に書いてもらうことで、対処法を探すことができ、よかった。全体的には、ひらがなに対する困難さや不満の意見がよくみられた。

## IX. 全体の反省

以下に、授業を行っての感想と事後アンケートからの学習者の評価を踏まえ、実習全体を通しての反省点を述べる。

### <授業・コース内容>

学習者からは、もっとひらがなに時間をかけてほしいとの意見があった。ゲームは楽しかったが、記憶の助けになっているのかどうかを疑問視する学習者もいた。

会話練習は、「とても役立った」「楽しかった」との評価が得られたが、時々教師の説明が不十分と感じている学習者もみられた。「場所をきく」の項目は学習者にとって簡単であったようなので、もっと早い段階で組み込んでもよかったのではないだろうか。

アクティビティでは、クラス目標でもある「実際の使用場面に触れる」活動を多く取り入れたが、それによって教室で学んだことが実際の会話場面に使えるという喜びにつながっていたように思われる。

ノートをとりたい学習者が多く、その時間に何かを指示しても伝わらなかった。ノートをとる時間をどう捉えるかにも考察の余地があったと思われる。指示の仕方も不明確な時があった。

一つのトピックを複数の教師で分担する場合、それぞれが担当する授業内容を教師間で十分に検討、話し合うことができれば、授業の流れや内容の質がもっと上がったのではないだろうか。

### <教科書・教材>

昨年度使用のすいかを検討し、必要な内容、項目のみを選定した。ゼロ初級ということで、比較的、早い段階から計画的に進められたのではないだろうか。事後アンケートの結果からも、シンプルで生活に必要な学習項目がカバーされたシンプルな教材だったとの感想が得られた。他にも、「英訳が役立った」、「文法説明がよかった」との評価が学習者から得られた。

タスクシートに予めファイル用の穴をあけておくことはとても有効だった。もっと絵等の工夫をし、理解の助けとなる情報を加えられるとよかった。

### <次回以降の実習生に伝えたいこと>

教科書については、昨年度の教材に関する事後アンケートでは、「説明が豊富でよかった」「今後の自主学習に活用できる」等の意見があった。今年度は、あえて必要だと思われる

項目のみにしぼり、より簡潔なものを目指したが、昨年、今年度のそれぞれの長所、短所についてさらなる検討の余地があるだろう。

ゼロ初級は、全クラスの中で比較的レベルが予測しやすいクラスであると思われる。教材・教具作りに時間がかかるので、できるだけ早めにとりかかり、後の作業に十分な時間がとれるよう、計画的に進めるとよいだろう。

<長谷川・林>

## 4. 2. Bクラス

### I. 担当実習生

河口、越賀の2名が担当した。基本的に一コマの授業は一人の実習生が授業を行い、残りのメンバーが補佐としてビデオ撮影、記録を請け負った。

### II. クラス目標

AETとして日本で生活する上で最低限困らない程度の日本語を身につける。

日本での生活を始める前段階として役立つ情報・知識を得る。

### III. 学習者

学習者	国籍	性別	学習歴	滞日期間	参加日
A	アメリカ	男	1年	6年	全日
B	アメリカ	男	なし	1年	全日
C	カナダ	女	8ヶ月	1年	13日（遠足）のみ欠席
D	カナダ	女	なし	1年2ヶ月	全日
E	イギリス	男	9ヶ月	なし	全日
F	ニュージーランド	男	6ヶ月	2ヶ月	13日（遠足）のみ欠席
G	アイルランド	男	1年3ヶ月	なし	全日

### IV. 学習者のニーズ・レディネス

（コース開始前）

プレースメントテストからニーズを、事前アンケートからレディネスの把握を試みた。

ニーズ：

教室での使用文字は全員ひらがなを希望していた。授業で焦点をあててほしい内容では、5名が会話、2名が文法と希望していた。文法を希望していた2名は滞在が長く、日本語を体系的に勉強したいという思いが強かったと推測される。

レディネス：

学習者 D は学校機関で日本語を学習したことがなかったが、他の学習者よりも日本滞りが長かった。そのため、プレースメントテストの結果も含め、他の学習者と同等の日本語レベルであると判断した。他の学習者は主に大学で日本語を学習していた。全員ひらがなは読めたが、2名はひらがなが書けないと事前アンケートで答えていた。

(コース開始後)

コース開始前は、毎日の授業後アンケートからニーズを再度把握しその後の授業に取り入れる等して授業内容、レベルを調整する予定であったが、アンケートによる授業評価では学習者からの不満が見られなかったため、特に授業計画の修正は行わなかった。

## V. シラバス

機能シラバスと場面シラバスの折衷シラバスを採用した。

月日	1 限目	2 限目、3 限目
8月10日(水)	オリエンテーション あいさつ表現	L1 自己紹介 表現練習、名刺交換・お辞儀を含む実践
8月11日(木)	L2 注文する (1) こそあ、～の	表現練習、レストランでのロールプレイ
8月12日(金)	L3 道を尋ねる います、あります	表現練習、場所を尋ねる教室外活動
8月17日(月)	L4 買い物する い形容詞	表現練習、買い物のロールプレイ
8月18日(火)	L5 誘う 動詞、い形容詞	～たことがあります、～たいです 表現練習
8月19日(水)	復習 な形容詞	復習、すごろく パーティー

## VI. テキスト編纂

テキストやハンドアウトを作成するにあたって、以下のような文献を参考にした。

- ・昨年度実習で作成された A、B クラスの教科書
- ・『みんなの日本語 初級 I』スリーエーネットワーク
- ・『日本語入門 はじめのいっぽ』スリーエーネットワーク
- ・『Japanese for everyone』学習研究社
- ・『楽しく話そう 文化初級日本語会話教材』凡人社
- ・『日本まるごと事典』講談社

## VII. クラス内容

2005年8月10日	1限目	担当：河口
学習事項		
あいさつ表現		
授業の流れ		
<p>コースについて説明する。</p> <p>あいさつことばを確認する。</p>		
反省		
<p>あいさつことばの確認は難しいレベルのものではなかったが、予想していたよりも書くのに時間がかかり、負担が大きい活動になってしまった。もっと簡単に（口頭で）すませてもよかったと思う。初めに授業の雰囲気を作るのが難しかった。教師も学習者も緊張していたと思う。</p>		

2005年8月10日	2、3限目	担当：越賀
学習事項		
名詞文、数字		
授業の流れ		
<p>ダイアログを聞いて内容の理解確認をする。</p> <p>インタビューシートを用いて相手の「好き嫌い」を聞く会話練習をする。</p> <p>カレンダーを提示して数字を導入する。</p> <p>自己紹介のビデオを見る。</p> <p>席を立ってお辞儀の練習(ペアで)をする。</p> <p>日本人のジェスチャー、しぐさを紹介する。</p>		
反省		
<p>授業に取り入れる項目は単発であるが、相互につながりがなく、量的にも取り入れすぎた。また、一つ一つの活動にかける準備が不足していた。学習者によって文字が読める人、読めない人がおり、タスクを行う際もっと考慮が必要だった。初日だったので、学習者個人の性格や、習得している能力、文法項目を大まかに推測することができ、翌日の授業作りに役立てることができた。</p>		

2005年8月11日	1限目	担当：越賀
学習事項		
これ、それ、あれ、どれですか 所有、修飾の「の」、助数詞		
授業の流れ		
<p>新単語チェックをする。</p> <p>「これ(それ、あれ)は～です」の形を導入する。</p> <p>修飾、所有の「の」導入後、ゲームで理解を深める。</p> <p>ダイアログを聞いて、内容の理解確認をする。</p> <p>助数詞の導入をする。</p> <p>数字ビンゴ。Sの私物や絵を指し、当たった数字と組み合わせ助数詞を用いて言わせる。</p>		
反省		
<p>前日に導入した単語や表現を学習者が積極的に使用しており、質問もよく出された。習った語や表現を使おうとする意欲が見られ、短時間で導入した項目でも吸収してもらえることが分かった。ただ、個人差が大きいので、あまり理解できていない学習者と復習感覚で受け止めている学習者とが混在していることが気になった。が、そのままにしてしまった。</p>		

2005年8月11日	2、3限目	担当：河口
学習事項		
これ・それ・あれ、注文する時に必要な語		
授業の流れ		
<p>ビデオを見る。</p> <p>教科書のダイアログを聞いて内容を理解する。</p> <p>ペアでインフォメーションギャップのある会話練習をする。</p> <p>居酒屋での注文場面という設定でロールプレイを行う。</p>		
反省		
<p>ペアでの会話練習の時に使ったタスクシートについての説明が足りず、活動に入るまでに時間がかかった。学習者の態度が消極的で、口頭ドリルの参加の様子もあまりよくなかった。話せる雰囲気を作れるよう心がける必要があった。現実に近いコミュニケーション場面で練習した時は学習者の参加が積極的だった。</p>		

2005年8月12日	1限目	担当：河口
学習事項		
存在文、場所・位置詞の名称、ここ・そこ・あそこ		
授業の流れ		
<p>存在文を導入する。</p> <p>位置詞を実際に体を動かしながら確認する。</p> <p>練習問題を通して理解を深める。</p>		
反省		
<p>タスクで2グループに分けたが、1グループしか活動ができなかった。グループ間にかかる負担が違ってしまった。位置詞の確認をもっと丁寧にすべきだった。活動は盛り上がったが、活動の様子と学習者の理解とは別である。</p>		

2005年8月12日	2、3限目	担当：越賀
学習事項		
<p>存在文、来ます、行きます</p> <p>聞き返しの仕方、となりに、～と～のあいだに</p>		
授業の流れ		
<p>「行きます、来ます」、存在文の復習をする。</p> <p>「となりに」、「～と～のあいだに」の応用練習をする。</p> <p>タスク①：本屋、スーパー等の位置を地図を見ながら答える。</p> <p>ダイアログを聞いて内容の理解確認をする。</p> <p>3択クイズ(聞き返しの仕方)を行う。</p> <p>タスク②：2グループに別れ指令カードに従い目的地に行く。到着したら証拠写真を撮る。</p>		
反省		
<p>授業の前半に動きを取り入れた活動を行ったことがクラスの雰囲気を変えたかもしれない。前日までとは違い、大きい声や笑いが出ており生き生きしていた。</p> <p>位置や場所の名詞(例えば、「みぎ」、「ひだり」)は導入の仕方と、地図の書き方が悪く、最後まで学習者を混乱させてしまった。見る人の顔の向きを地図上に書いておけばよかった。</p> <p>最後のタスクで教室外に出ると、教室内ではあまり話さない学習者が積極的に発言した。</p> <p>図書館の受付で率先して目的物の場所を聞き、タスクを成功させた。違う環境の中で行う活動は必要だ。</p>		

2005年8月17日	1限目	担当：越賀
学習事項		
動詞文、い形容詞文、い形容詞+N 名詞の「の(=もの)」、～より		
授業の流れ		
<p>新単語チェックをする。</p> <p>動詞文を聞いてジェスチャーをする(時計を見ます、そばを食べます、お酒を飲みます・・・)。</p> <p>形容詞を導入する。</p> <p>「い形容詞+N」を導入後、理解確認を口頭で行う。</p> <p>「い形容詞、N+の」を導入後、理解確認を口頭で行う。</p> <p>「AはBより～です」の文を導入後、プリントで理解を深める。</p>		
反省		
<p>動きを取り入れるジェスチャーの時間はやはり盛り上がった。もう少し長くやれるように例文を多く用意しておくべきだった。</p> <p>一つの活動から次の活動に移るときのタイミングがうまくいかず、学習者を待たせてしまった。また、1時間に多くの項目を詰め込んだので、理解できない学習者がいた。その場合の対処の仕方、確認問題の準備までしておくべきだが、その余裕がなかった。学習者の理解を少しでも助けるために、ドリル練習とコミュニケーション練習を入れる場所や順番を、もっと考える必要があった。</p>		

2005年8月17日	2、3限目	担当：河口
学習事項		
形容詞、比較文		
授業の流れ		
<p>形容詞、比較文を使ってペアで会話をする。</p> <p>会話文を読む。</p> <p>買い物場面でロールプレイを行う。</p>		
反省		
<p>活動指示がはっきりしていないことが多く、活動に締まりがなかった。ある学習者に文字表記がないと記憶にとどまらないので板書をもっと増やして欲しいと言われた。会話中心の授業という意識から、話すことと聞くことに意識が向きすぎていたと反省。</p>		

2005年8月18日	1限目	担当：河口
学習事項		
～ませんか、～ましょう		
授業の流れ		
～ませんか、～ましょうを導入する。 口頭ドリルを行う。 ペアで会話練習をする。		
反省		
タスクの入りがうまくいかなかった。指示、説明が一部の学習者に伝わらない。もう少しゆっくりと丁寧に学習者の顔を見ながら進めていく必要がある。ダイアログは全体で読みの練習をしてからペアに移ればよかった。全体的に丁寧さが欠けていた。		

2005年8月18日	2、3限目	担当：越賀
学習事項		
動詞の普通体、～たことがあります、～たいです、日英の「行きます、来ます」		
授業の流れ		
普通体、過去の普通体の変換練習をする。 「～たことがあります」を導入後、プリントで応用練習をする。 「～たいです」導入後、プリントで応用練習をする。 3択クイズ(日英の「行きます、来ます」)を行う。 2つのダイアログを聞いて内容の理解確認をする。		
反省		
個人ではなくペアワークやグループワークをさせると活発に話してくれるようだ。 文字が定着していない学習者はいるが、板書を多くすると以前よりも理解がスムーズになる学習者もいた。文字が苦手な学習者に対するケアをしながら授業を作らなくてはならない。タスクや発表の後の「締めくくり」があいまいで、だらだらと活動が終わってしまう。		

2005年8月19日	1限目	担当：越賀
学習事項		
な形容詞、助詞「ね」と「よ」、学校行事紹介		
授業の流れ		
<p>な形容詞の各活用形を導入後、形の練習をする。  「な形容詞+N」を導入する。  ダイアログで「ね」と「よ」の違いを説明する。  学校行事の紹介をする。</p>		
反省		
<p>板書に注目している学習者が多いことが分かった。  学校行事の紹介は、本当に紹介で終わってしまった。他のやり方も考える必要があると思うが、学習者としては単なる知識でも貴重な情報だったようだ。取り上げてよかった。</p>		

2005年8月19日	2限目	担当：河口
学習事項		
コースで習ったことば、文型の復習をする。		
授業の流れ		
<p>すごろくゲーム（「どんな音楽が好きですか」等質問文を書いた紙を伏せた状態で並べ、さいころを振り自分のコマがとまった紙に書いてある質問に答えるという内容）を行った。  始めに全体にルールを説明し、その後学習者にも質問文を紙に書いてもらった。次に2グループに分かれ、それぞれ既習の項目を使いながら会話をした。</p>		
反省		
<p>目標はコースで勉強した学習項目の復習であったが、全ての項目に触れることができなかった。書かれていた質問に偏りがあったため、物足りなさを感じる学習者もいたようだ。だが、学習者間にレベル差があったため、互いに協力しながら楽しく進められた。</p>		

## VIII. アンケート

Bクラスは授業後にA4一枚分のアンケートを毎日実施した。授業で扱った内容がどの程度学習者のニーズに合い、どう受け止められているかを知ることと、「日本文化・日本事情」の項目について尋ねることが目的である。以下に具体的な質問項目を提示する。アンケート後半の「日本文化・日本事情」の箇所はその日扱った内容に合わせて多少変化させた。

【資料：Bクラス授業後アンケートの提示例(1日目)】



自国との比較や日本についての感想を得ることができ、結果的に学習者に母語で考えさせることができたと思う。その意味で授業後アンケートは有意義であった。

## IX. 全体の反省

準備不足で学習者と休憩時間などにゆっくり話すことができなかった。学習者は全体的に授業中の発言が少なかったので、授業外でも話す余裕があれば、彼らの性格や別の面が見られ、良かったのではないかと思う。

1人1人の学習者のレベルや性格に合わせようとしすぎた。もう少し、教師がクラスをひっぱっていく姿勢を見せてもよかった。Bクラスは最後まで学習者のレベル分けが定まらず、幅のあるクラスになった。その分、教師側が方針をはっきりと提示し引っ張っていくという方法を採用すると良かったのかもしれない。

授業中の活動項目が細かく、次の活動へのつながりが悪かったが、Bクラスの学習者にとっては、短いコラムやクイズのような活動が好まれていたようだ。これらの活動を取り入れる順序を考える必要があった。

授業で使った道具（ぬいぐるみなど）がクラスにいい影響を与えたように思う。学習項目の導入などの学習面はもとより、キャラクターとしてクラスに定着したものもあり、クラスでの笑いをよく引き出していた

細かい反省点は数えれば限らないが、コース全体を満足度の観点から総合的に考えれば、学習活動内容、レベル、クラス環境作りなど成功した点が多かったといえるのではないかと思う。クラス全体や学習者個人のことを知るにしたがって、教師にとっては居心地のよいクラスになっていったし、学習者側も授業後アンケートから授業内容に関して高い評価を示していた。ただ、何を学習したかという学習面においては確認さえ十分することができず、クラス目標を達成できたかどうかは疑問が残る。

<河口・越賀>

## 4. 3. Cクラス

### I. 担当実習生

日本語教育学講座 大島晋

現代日本語学講座 太田真由美

### II. クラス目標

今回の実習は、一日3時間程度で6日間の短期コースであること、また各学習者に日本語能力試験受験などの共通の目的がないことが特徴としてあげられる。一日3時間で6日間というのは、学習者の全体的な日本語能力を高めるには十分な期間とは言えない。したがって、持っている日本語能力に新たな項目を付加するよりも、「今もっている日本語能力を最大限利用する（ストラテジーなど）ことで、情意面での負荷を下げる。実用的な項目を取り上げつつ、内容の面白さ、達成感を最重視する」、というクラス目標を掲げた。

### III. 学習者

学 習 者	国 籍	性 別	参 加 日
A	カナダ	男	12, 16, 17
B	米国	男	全日（除遠足）
C	豪州	女	全日
D	アイルランド	男	11
E	米国	男	全日（除遠足）

### IV. 学習者のニーズ・レディネス

事前アンケートの結果では、「焦点をあてて欲しい内容」としていたのは、「会話」4名、「文型」1名であった。先に挙げたクラス目標もこの結果を基にしている部分が多い。また、学習者のレディネスに関しては、日本語能力を測るプレースメントテストなどを行っていないためかなり大まかな日本語でのコミュニケーション能力しか分かっていない。

### V. シラバス

1限目は、場面シラバスを用いて、学習者に実践的な日本語の運用能力を身に付けさせることを目的とした。そして、場面シラバスの中に、どのように文法項目を取り入れていくかを課題とした。

2限目では、新しい日本語の文法や語彙を導入するということに焦点をおかず、日本滞在

で知っていた方がよい知識、技術を教授し、またコミュニケーションのためのタスクを用意し、そのタスクに合わせて授業を展開するといった感じで展開するといった複合シラバスを採用した。

月日	1 限目	2 限目
8月10日(月)	自己紹介	日本語でコンピューターを操作する
8月11日(火)	家電を購入する 美容院に行く	日本での生活や、日本語学習に役立つサイトを紹介する
8月12日(水)	電話で誘う	図形とその位置関係を指示するタスク(口頭)
8月17日(月)	同僚の先生と食事に行く	図形とその位置関係を指示するタスク(CMC)と絵の間違いを指摘するタスク(CMC)
8月18日(火)	学校へ連絡する 校長先生と会話する	絵の間違いを指摘するタスク(口頭)、あるものを別の表現で説明する
8月19日(水)	読解「スリッパ」	マンガを読む・様々なオノマトペ

## VI. テキスト編纂

1限目の授業では、場面に応じた複数の会話(Dialogue)を作成し、英訳をつけた単語のリスト、文法・表現の資料とともに、学習者に配布した。

2限目の授業では、ウェブページ上にリンク集なども兼ねたテキストを載せて、必要に応じて参照した。また、読解の授業に関しては、単語集などをプリントアウトの形で配布した。

## VII. クラス内容

2005年8月10日	1限目	担当：太田
学習事項		
<p>・互いに自己紹介をして、出身地・趣味などについて話す。          ～として／ご～ (polite) ／～より～の方が～／～のは／Volitional Form+ と思った          Potential Verbs／～んです</p>		
授業の流れ		
<p>実習生の自己紹介 → 学習者の自己紹介 → 会話の呈示 → 文法説明・確認          → タスク（初対面の人に話しかける） → クイズ（その人は誰でしょう）          → テキスト・資料の確認 → フリートーク</p>		
反省		
<p>フリートークが活発にできる学習者達だったので、1日目の授業で、学習者達は「できる」と思い込み、学習者間のレベル差、学習者の文法力のなさを見逃してしまった。</p>		
2005年8月10日	2限目	担当：大島
学習事項		
日本語での入力・オンライン辞書の利用・日本語でEメールを書く		
授業の流れ		
各学習者をコンピューターの前に座らせて、コンピューターでのメール入力などを実際に行わせる。		
反省		
<p>若干試行錯誤気味で行ったため、その場その場で対策を考えるような芯のしっかりしていない授業を行うことになってしまった。学習者が何を学んでいるのか、ということ意識出来るように授業を運ぶべきであった。</p>		

2005年8月11日	1限目	担当：太田
学習事項		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家電の店で、店員と話す。①購入を保留する。②家電を購入する。</li> <li>・美容院で、髪を切る。</li> </ul> <p>Extra-modest/Humble Expressions/～のが/Honorific Verbs お+verb stem+下さい/～ておく</p>		
授業の流れ		
1日目の文法項目の復習 → 会話①の呈示 → 文法説明・練習 → 表現説明・練習 → 会話②の呈示 → 文法・表現説明 → 会話③の呈示 → 文法・表現説明		
反省		
学習者に文法が入っていないことが分かったことで、文法中心の授業になってしまった。しかも、立て続けに、尊敬語・謙譲語などの文法説明を延々とする授業としてしまった。		
2005年8月11日	2限目	担当：大島
学習事項		
買い物の情報をネットで調べる・実際に買い物をする・日本語の記事を読む (WebUD)		
授業の流れ		
昨日と同様に、学習者全員がコンピューターの前に座り、実際にインターネットに接続しながら、用意したカタログから選んだもの (デジタルカメラ) がネット上のどの店で安いかなどを探すタスクを行った。また、WebUDを利用した読解を行った。		
反省		
実用的でよいという評価を受けた反面、特にハンドアウトなどを作成しなかったために、学んだことを忘れてしまうといった指摘を受けた。もっと、計画的な授業を行うべきであった。		

2005年8月12日	1限目	担当：太田	
学習事項			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に電話をかけて誘い、一緒にどこかへ行く約束をする。</li> <li>・道の説明をする。</li> </ul> <p>まだ～ていません／～なら／～ている／Transitivity Pairs／あげる・くれる・もらう ～てくれてありがとう</p>			
授業の流れ			
<p>2日目の文法項目の復習 → 文法（自他動詞など）確認 → 会話の呈示 → 文法・表現説明・練習 → タスク①（電話で誘う・受ける） → タスク②（道の説明をする） → リスニング</p>			
反省			
前日の反省から、授業をタスク中心のものとした。電話機の不具合、誘導の不手際もあったが、タスクは楽しいものとなった。			
2005年8月12日	2限目	担当：大島	
学習事項			
図形の位置、形、色などを指示するインフォメーションギャップタスク（口頭）			
授業の流れ			
学習者に修論での実験に利用する旨を伝えたあとに、タスクを行った。			
反省			
計らずとも、この授業がこれまででは一番日本語の授業を意識させるものとなった。学習者の、日本での生活力ではなく、日本語能力を刺激することが出来たからだろう。			

2005年8月17日	1限目	担当：太田	
学習事項			
<p>・約束の時間に遅れ、謝る。同僚の先生と食事に行く。友達と喫茶店に行く。          ～てしまう / ～ものですから / お+verb stem+になる / ～そうです          V(Causative)+て下さい / Causative Sentences</p>			
授業の流れ			
<p>3日目の文法項目の復習・練習 → 会話①の呈示 → 文法・表現説明 → 表現練習          → 文法・表現説明 → 会話②の呈示 → 文法・表現説明 → 会話③の呈示          → 文法・表現説明 → 文型練習① → 文型練習② → 会話④の呈示          → 文法・表現説明 → ロールプレイ → フリートーク</p>			
反省			
<p>コース前半 3 日間を終え、学習者に文法力が思いのほかなかったことから、文法をしっかり押える授業へと自分の中で方向性が変わってしまった。しかし、細かい文法を押し付けることに何の意味があったのだろうか。ボトムアップの授業になってしまっているが、同じ場面シラバスを使うにしても、トップダウンの授業の方が、学習者にあっていたと思う。</p>			
2005年8月17日	2限目	担当：大島	
学習事項			
<p>図形の位置、形、色などを指示するインフォメーションギャップタスク (CMC)          自分の持っている絵と相手の持っている絵の違いを指摘するジグソータスク (CMC)</p>			
授業の流れ			
<p>コンピューター室を利用して、先に行ったタスクと、新しいタスクをしてもらった。新しいタスクを行う前に、いくつかの語彙の導入を行っている。</p>			
反省			
<p>コンピューターで行うことに意味を持たせるという作業が欠如していた。実験であるため、コンピューターを利用することは既定事項であったわけだが、学習者にどのような利益があるかなどの説明は教師という立場上するべきであった。</p>			

2005年8月18日	1限目	担当：太田	
学習事項			
<p>・体調が悪いので、学校へ欠席の連絡をする。①直属の先生に代わってもらう。②伝言をお願いします。</p> <p>V(Causative)＋ていただけませんか／～にお伝えいただけますか／～ので Passive Sentences/Honorific(Passive Form)／～つもりだ／name という item</p>			
授業の流れ			
<p>4日目の文法項目の復習・練習 → 会話①の呈示 → 文法・表現説明 → 表現練習 → ロールプレイ → 会話②の呈示 → 文法・表現説明 → 表現練習 → ロールプレイ → 会話③の呈示 → 文法・表現説明 → 文法説明 → 問題（尊敬語をさがす） → リスニング</p>			
反省			
<p>ロールプレイにおいては、それらしい状況を作るべきであった。授業時間が残り少なくなったとき、準備した項目を無理に取り上げず、学習者の負担と混乱を避け、学習した内容の復習などの時間にあてるべきであった。</p>			
2005年8月18日	2限目	担当：大島	
学習事項			
<p>自分の持っている絵と相手の持っている絵の違いを指摘するジグソータスク（口頭） 身近なものを日本語で表現する練習</p>			
授業の流れ			
<p>机を並べ替えて、お互いに姿の見えない状態にしてタスクを行う。その次に、サバイバルとして役に立ちそうな能力である「言い換え」に関するタスクを行った。</p>			
反省			
<p>「言い換え」に関するタスクはお粗末だった。タスクを行うときは、よほど準備が大変なものを除いて、難易度にある程度幅を持たせた準備を行う必要があった。</p>			

2005年8月19日	1限目	担当：太田
学習事項		
エピソード「スリッパ」を読む。日本に来て驚いたことを話し合う。 ～時／Causative-passive Sentences		
授業の流れ		
5日目の文法項目の復習・練習 → 話題の呈示 → 読解文黙読 → 読解文の確認 (一節ずつ指名された学習者が音読 → 意味・文法の確認) → 問題シート (内容の確認)		
反省		
学習者は、著しく読解力がなかった。黙読にかなりの時間を費やし、一文ずつ意味を追っていくのに終始してしまった。事前に学習者の読解力を見るべきであり、また、学習者に読解力がないとわかった時点で、授業の内容を変えるべきであった。		
2005年8月19日	2限目	担当：大島
学習事項		
マンガ「ドラえもん」の読解		
授業の流れ		
マンガを読み続けた。		
反省		
1時限目に読解を行ったため、統一感を持たせるためにこちらでも読解を行ったが、学習者からしてみれば2時限連続での読解は苦痛であったかもしれない。中途半端な統一させようという意識が生んだ結果である。1時限目に読んだ内容に基づいての活動を行うなど、より変化のある授業を行うべきであった。		

## VIII. アンケート

1限目の授業にかかわる項目、テキスト・ハンドアウトの教材は、役に立ったかという問いに、Cクラスの回答者4名は全員 Yes とした。しかし、その理由を1名は「日本語の文法項目の英語の説明。沢山の新しい語彙」としているが、他の1名は「大変詳細。殆ど多すぎる。」としているので、不必要に詳細で量が多かったと反省している。

また、1名の学習者は、その他のコメントとして「BとCのレベルの間のコースが必要。Bが簡単すぎ、Cは難しすぎる。」としている。クラス分けについては慎重にならなければならないが、やはり、このように学習者にレベル差があっても、学習者全員が楽しめる授業内容を考えるべきであったと思う。

2限目に関するアンケート調査についての詳細は、実習研究にて詳しく論じているため、

ここでは簡単に述べるにとどめておく。アンケートは学習者ダイアリーを記述する、という形で行われ、質問事項などは例としてあげているだけで、強制的にある項目について書くような指示はしていない。学習者の授業に対する評価をするという目的だけではなく、学習者の内面を知ることによって教師と学習者の相互の理解を深める目的としても行われた。その結果、学習者の授業に対する考えや、学習に対する考えなどが分かり、授業の実施方法などの参考となった。

## IX. 全体の反省

1 限目の授業は、Cクラスのクラス目標に従い、場面シラバスを用いて、学習者に実践的な日本語の運用能力を身に付けさせることを目的としていたのであるが、思ったより学習者に文法力がなかったこと、また、学習者にレベル差があったことから、逐次、文法を確認し、場面シラバスに基づいた会話（Dialogue）をボトムアップで教えていく授業となってしまった。これは、初級の文法項目を「入れなければ」という目先の考えに囚われたものと反省する。

限られた日数であるコースの期間、学習者のニーズ、また、学習者に相応しい学習のあり方を考えれば、細かな文法など押し付けずに、学習者の実践的な日本語の運用能力を引き出す授業を展開すべきだったと考える。例えば、学習者達は活発なフリートークができたので、学習者に場面を与えて、フリートークをさせ、その中から表現・文法を適宜教授する方法もあったと思う。そうすれば、学習のレベルにかかわらず、学習者が授業を楽しめたと思う。

2 限目では、計画を立てて、その通りに授業を執行したわけではないために、分析的に授業を反省することが出来ないという点が全体の反省点としてあげられる。特に、自らの修士論文のデータ収集のために、無理矢理日程を組んでしまったところもあり、結果としてはともかく、まとまりのない実習日程となってしまった。

コースが始まると、日々の授業に追われ、余裕を失ってしまうが、広い視野に立ち、他の人のアドバイスを聞くことも必要であると感じた。

<大島・太田>

## 4. 4. Dクラス

### I. 担当実習生

国沢里美、稲田朋晃

### II. クラス目標

学習者の多くは大学など正規の学習機関の日本語コースを受講してきており、基本的な文法項目はひととおり学習してきていると予想された。そこで、待遇の使い分け、感情表現などを重視し、周囲の日本人とよりよい人間関係を築くための表現を学ぶことを目標とした。「依頼」「謙遜」などの機能シラバスを軸とし、音声表現、読解・ディスカッション、オノマトペなどの項目も加え、総合的な日本語運用能力をつけることを目指した。

### III. 学習者

学習者	国 籍	性 別	学習歴	滞日期間	参 加 日
A	カナダ	男	4年	5年10か月	全日
B	アメリカ	男	2年	2年11か月	全日
C	アメリカ	男	?	2年10か月	全日
D	オーストラリア	女	5年	2年6か月	全日
E	ニュージーランド	男	3年	1年1か月	全日
F	カナダ	男	2年	1年6か月	11日、12日

学習者の出席率は全体的に良好で、学習者F以外はすべての授業に参加した。遅刻もほとんどなかった。Fは授業中に質問をたくさんするなど学習に熱心な様子であったが、両親が来日するとの理由で、17日以降はすべての授業を欠席した。

学習者の性格は総じて明るく、授業時間内の会話はもとより、休憩時間のおしゃべりも活発であった。授業中に冗談を言い合う場面も多かったが、授業を乱すレベルまで到達することはなく、全員大人らしいふるまいで授業に臨んでいた。

学習者Aは、日本語力がもっとも高く年長者であるためか、授業中に教師の説明が伝わらなかったときなどに仲介してくれたり、全体の調整役をかって出でてくれた。

学習者Bは、日本人のような人あたりのよさと高い学習意欲を持っていた。フェアウェル・パーティーの司会を自らかって出でてくれるなど、リーダーシップの強い学習者であった。

学習者Cは、JET プログラムの2年目である。語彙や文法が多少弱い面はあるものの、高いコミュニケーション能力を持っており、授業を明るくしてくれた。

学習者Dは、一見内向的でもの静かに見えたが、ロールプレイなどをやってもらうと、非常によく話した。

学習者 E は、当初予想したより日本語能力が高かった。冗談も多く、明るい性格だった。  
 学習者 F は、先に述べたように、非常に学習熱心な様子であった。

#### IV. 学習者のニーズ・レディネス

事前アンケートとインタビューによって、学習者のニーズを尋ねた。もっとも多かった回答は漢字と文法であり、新聞の漢字が読めるようになりたいという意見もあった。会話の面では、職場で使う表現や待遇表現を学びたいという意見が多かった。多くの学習者に日本人の配偶者や恋人がおり、日本人の友達も多いようで、日常会話レベルでは困ることは少なく、よりフォーマルな場での読み書きや会話を学びたいようだった。

レディネスは、事前アンケート内の学習期間や学習機関、教科書などの情報に加え、インタビュー時のロールプレイと文法テストによって判断した。ロールプレイは校長先生に休暇願いを出すという設定で行った。おおよそ上手くできていたが、待遇表現が不十分な話者や談話構成に問題のある話者が何人かいた。文法テストは、受身・使役、待遇表現などを中心にした問題を用意した。チャンスレベルの得点から満点近くまで、レベル差が大きかった。

#### V. シラバス

「依頼」「謙遜」などの機能シラバスを軸とし、音声表現、読解・ディスカッション、オノマトペなどの項目を加えた。

月日	1 限目	2 限目	3 限目
8月10日(水)	文法①敬語(尊敬語)	文法①敬語(謙譲語) 文法②授受表現	音声指導の概要を説明 先生にメールを書く
8月11日(木)	依頼と断りの表現	お礼を言う・謝る	「ア」「エ」など感嘆詞 のイントネーション
8月12日(金)	許可を求める表現	感嘆詞のイントネーシ ョンの復習と終助詞の イントネーション	インターネットで必要 な情報を調べる練習
8月17日(月)	意見を言う	文イントネーション	NEET についての発 表・討論①
8月18日(火)	相談する・助言する	NEET についての発 表・討論②	感情を表す副詞・オノマ トペ①
8月19日(水)	オノマトペ②	身体表現	事後アンケート パーティー

## VI. テキスト編纂

テキストは、昨年の教育実習で使われた中上級用テキストや市販されているテキストを参考にしながら、作成した。

機能シラバスの部分は、2004 年度夏の教育実習用テキスト『ゆかた』を中心に、『Situational Functional Japanese』『新日本語の中級』などを参考にしながら作成した。音声指導の部分は、『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』などのテキストを参考に作成した。読解・ディスカッションについては、鮮度の高いテーマが望ましいと考えたため、テーマを「ニート」に決定し、WEB 上の記事などを引用しながら独自に作成した。以下に参考にしたテキスト名を挙げておく。

- ・筑波ランゲージグループ（1991）『Situational Functional Japanese 1,2,3』凡人社
- ・海外技術者研修協会（2000）『新日本語の中級』スリーエーネットワーク
- ・小川誉子美、前田直子（2003）『日本語文法演習（上級）敬語を中心とした対人関係の表現—待遇表現—』スリーエーネットワーク
- ・藤原雅憲、初山洋介編（1997）『上級日本語教育の方法』凡人社
- ・戸田貴子（2004）『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』スリーエーネットワーク
- ・河野俊之・串田真知子・築地伸美・松崎寛（2004）『1日10分の発音練習』くろしお出版

## VII. 授業内容

2005年8月10日	1限目	担当：国沢	
学習事項			
文法①敬語（尊敬語）			
授業の流れ			
<p>まずお互いに自己紹介をしてから授業に入った（JETの人同士、アルティアセントラルの人同士で他者紹介をしてもらおうと考えていたが、お互いをよく知らないと言われ、自己紹介になった）。</p> <p>導入では、「目上の先生のお宅に電話したことがあるか。何と言うか」という質問をし、提示した会話例の中で不適切だと思われる箇所を指摘してもらった。そして、マス形から尊敬語への変換ドリル、目上の先生に質問するチェーンドリルを行なった。最後に、目上の先生を紹介するスピーチ原稿を、尊敬語を使った表現に変えるというタスクを行なった。</p>			
反省			
<p>今回のコースにおけるクラス目標は「待遇表現の使い分け」であり、最初に敬語を扱うことで学習者の敬語への意識を高めることをねらった。そのため、尊敬語と謙譲語の形を1つずつ確認したが、敬語のニーズが高かったこともあり、積極的に取り組んでもらえた。学習者は全員敬語を勉強したことがあり、予想していたより練習はスムーズに進んだが、忘れてしまっている部分もあったので最初に復習してよかったと思う。</p>			
2005年8月10日	2限目	担当：国沢	
学習事項			
文法①敬語（謙譲語）、文法②授受表現			
授業の流れ			
<p>謙譲語は、絵パネルを見て、適切なセリフを考えるという導入をし、尊敬語と同じく、マス形から尊敬語への変換ドリル、目上の先生に質問するチェーンドリルを行なった。ここで尊敬語と謙譲語が使われる場面を比較し、2つの使い分けを確認した。そして目上の先生との会話シートを完成させ、それを参考にしながら目上の人との会話を練習した。</p> <p>授受表現については、プレゼントに何をあげるか／もらったことがあるか、について質問するという導入であった。図を使って「あげる・もらう・くれる」を整理し、「いただく・くださる」についても確認した。最後に絵カードを見て文を作ってもらった。</p>			
反省			
<p>まとめとして尊敬語・謙譲語の一覧表を配布したが好評だった。授業時間以外でも参照できるものがあつたほうがいいと思う。</p> <p>初日の2コマで、コース全体に関わる項目のうち特に重要であると思われる「敬語」と「授受表現」の復習をしたいと考えたが、内容が多すぎた。授受表現に関しては、予定していたタスクができず練習が不十分なまま終わってしまった。</p>			

2005年8月10日	3限目	担当：稲田
学習事項		
音声指導の概要を説明、先生にメールを書く		
授業の流れ		
<p>6日間のカリキュラムの中で、1日15分程度、音声指導を行うことを説明する。その後、イントネーションなどの指導項目を含んだダイアログを学習者によんでもらい、録音する。全員ノリノリでダイアログを読んでもらった。</p> <p>日本語でのメールの書き方の概要を説明した後、院生室のコンピュータールームに移動。鷺見先生あてに遠足に参加して欲しいという旨のメールを書いて送ってもらう。学習者は個々に黙々と作業をしており、時折、分からないところを質問していた。</p>		
反省		
<p>ほとんどの学習者が日本語でメールを書いたことがあり、体験としての価値は少なかったように思う。学習者が書いた文章は、それぞれを添削して次の日の休憩時間に返した。しかし、少しでも時間をとって全員向けにフィードバックを行ったほうがよかったように思う。</p>		

2005年8月11日	1限目	担当：稲田
学習事項		
依頼と断りの表現		
授業の流れ		
<p>依頼表現を、友達との会話の場合と上司との会話の場合に分け、待遇に留意した依頼表現を学ぶことを目的とした。また、談話構成に留意した丁寧な断り方も指導した。</p>		
反省		
<p>学習者同士でロールプレイを行ったが、依頼されるほうの学習者に「何度断るか」を指示しなかったため、会話がすぐに終わってしまった例があった。また、断り表現の説明がロールプレイの後になってしまったため、説明が重複してしまった。</p>		

2005年8月11日	2限目	担当：国沢
学習事項		
お礼を言う・謝る		
授業の流れ		
<p>「お礼を言う」については、お土産をもらった時それをいつ開け、いつお礼を言うか、という質問から授業に入った。モデル会話を読み、内容を確認した後、いくつかの感謝表現を提示した。そして会話例を使って場面ごとに適切だと思われる表現を考えてもらった。</p> <p>「謝る」の導入は、忘れ物を取りに戻ったために学校に遅れたとき、何と言って謝るか、という質問であった。その後、モデル会話の確認、高いレベルの待遇表現が要求される場面における表現の確認、という流れで授業を進めた。</p>		
反省		
<p>授業時間に対して扱う内容が多く、学習者の発話機会が十分でなかった。表現のバリエーションを増やす練習は評価されたが、使用場面をはっきりと提示することができなかった部分があった。</p>		

2005年8月11日	3限目	担当：稲田
学習事項		
「ア」「エ」など感嘆詞のイントネーション		
授業の流れ		
<p>映画『釣りバカ日誌』の一部を見ながら、スクリプトの空欄に聞こえた感嘆詞を入れるという活動を導入とした。その後、イントネーションの解説と、教師のキューによる発話練習をした。</p>		
反省		
<p>DVDプレーヤーの操作に不手際があり、単なる導入にもかかわらず余分な時間がかかってしまった。事前に編集しておくべきだった。また、発話練習において学習者にシチュエーションを自由に考えて発話してもらった活動をしたが、説明または例が不十分でなかなか意図する発話がでなかった。</p>		

2005年8月12日	1限目	担当：国沢
学習事項		
許可を求める表現		
授業の流れ		
<p>導入では3つの許可を求める場面を提示し、それぞれに適切な表現を考えてもらった。モデル会話を読み、内容を確認した後、ペアで場面に応じて待遇表現を変えた許可の求め方の練習をした。さらに、許可を求められた場合の答え方の確認・練習も行なった。最後に、場面が書かれているカードを見て許可を求め、聞かれた人はそれに答える、というロールプレイをした。</p>		
反省		
<p>待遇による使い分けがどれ位できるかを見たかったため、それまでの授業に比べて導入に時間をとった。導入にしては少し負担が大きいものだったかもしれないが、待遇への意識を高めるという点では効果があったと思う。また、前日の反省から学習者の発話機会を増やすことを意識してペアワークやロールプレイを多く取り入れた。アンケートでもそれを評価するコメントが見られた。しかし、ロールカードの指示にあいまいな部分があり、それによって待遇のレベルが変わってしまったところがあった。</p>		

2005年8月12日	2限目	担当：稲田
学習事項		
感嘆詞のイントネーションの復習と終助詞のイントネーション		
授業の流れ		
<p>感嘆詞の復習は、教師の発話に対して学習者がなんらかの感嘆詞で答えるという形で行った。</p> <p>終助詞は、導入→説明→練習という手順で、「か・よ・ね」と「じゃない」をそれぞれ指導した。</p>		
反省		
<p>研究レポートでも述べたが、学習者の発話にイントネーションの誤りがあるにもかかわらず、それに気づかず訂正しなかった場面が多かった。場の楽しい雰囲気にならず、冷静に対処すべきだった。</p>		

2005年8月12日	3限目	担当：稲田
学習事項		
インターネットで必要な情報を調べる練習		
授業の流れ		
<p>「よみよみ」「webUD」などのソフトを紹介した後、コンピューター室へ移動。餃子の歴史と中国の餃子と日本の餃子の違いを調べるというタスクをやってもらう。学習者が困っていれば、教師2人がそれぞれ個別にアドバイスをした。その後、学習者が調べた内容を各自が発表した。</p>		
反省		
<p>多くの学習者が紹介したソフトを便利だと感じていたようだ。タスクの難易度もちょうどよかったように思う。</p>		

2005年8月17日	1限目	担当：国沢
学習事項		
意見を言う		
授業の流れ		
<p>日本人の先生に対し、英語の間違いをどう指摘するかという質問から授業に入った。そしてモデル会話を読み、内容を確認した後、「意見を言う／賛成・反対する／相手の意見を確認する／相手の意見に付け加える／意見を求める／説明を求める」場合の表現を確認した。その後2つのグループに分かれ、「住むなら都会と田舎、どっちがいいか」というテーマでディベートをした。まず各グループで意見を出し合い、ディベートに備えた。そして相手の意見を聞いた上で、自分たちの意見を述べるという活動を行なった。</p>		
反省		
<p>学習したものを意識的に使う練習ができたと思う。ディベート中、テキストを見ながら学習した表現を使おうとしている姿が見られた。ディベートでは全員が自分の意見を述べることでできており、予想以上に盛り上がった。しかし、導入部分とディベート部分のつながりは良くなかった。導入の部分では、実生活に近く分かりやすい話題を選んだつもりであるが、授業の流れを考えると再検討の余地がある。今回のクラスが特に準備がなくてもディベートができるほどのレベルであり、尚且つ積極的に意見を述べてくれる学習者に恵まれていたので成り立った部分大きい。</p>		

2005年8月17日	2限目	担当：稲田
学習事項		
文イントネーション		
授業の流れ		
日本語では、平叙文、否定文、疑問文など文型によってイントネーションのパターンが異なることを説明。その後、例示→説明→ひとりずつ発話というパターンで進める。最後に、文イントネーションに気を付けながらモデル会話を2人で読むペアワークを行った。		
反省		
今までの音声項目に比べて、リピートの声が小さいなど学習者の反応がイマイチだった。なぜ文イントネーションを練習する必要があるのかをもっとよく説明しておくべきだったと思う。		

2005年8月17日	3限目	担当：稲田
学習事項		
NEETについての発表・討論①		
授業の流れ		
あらかじめ「ニートと雇用形態」など3つのテーマを5人の学習者に振り分け、各自でテーマに関する記事をインターネットなどから探し、それについてのコメントを文章でまとめてきてもらった。この時間は、3人の学習者が発表を行った。発表者が選んだ記事を読みなで読み、さらに発表に対しての質疑応答の時間をとり、討論の練習をした。討論が滞った場合は、教師から発言を求めるなどの調整を行った。		
反省		
記事選びは、12日の「インターネットで必要な情報を調べる」という練習の応用として位置づけられる。学習者が自分の日本語レベルに合わせて、記事の難易度を選んでいた点はよかったと思う。討論においては、自分の意見が言えるようになることを目標としていたので、賛成側と反対側に無理に分けることはしなかった。レベルの高い学習者にはアンケートで「創造的な活動でよい」という評価をもらった。一部の学習者は、最初なかなか自分の意見を日本語にするのが難しいようであったが、後半になって活発に発言するようになっていた。そのため、比較的レベルの低い学習者にもよい練習になったと思う。		
ただし、語彙や文法などにいっさいフィードバックを与えなかったことがよかったのかどうかには疑問が残る。		

2005年8月18日	1限目	担当：稲田
学習事項		
相談する・助言する		
授業の流れ		
<p>友達、上司など待遇の違いを考慮して、相談したり、助言したりできるようになることを目標とした。導入→モデル会話の読み上げ→表現の紹介→ロールプレイという流れで進める。</p>		
反省		
<p>以前の授業後アンケートで学習者から「もっと発話の機会を増やして欲しい」という意見があったので、表現の紹介や説明を短めにし、ロールプレイに多くの時間を割いた。これまでの機能シラバスに基づいた授業のロールプレイでは、会話の流れが単調になってしまっていたので、ロールプレイのバリエーションを増やした。教師のフィードバックの与え方も少し慣れてきて工夫できていたように思う。</p>		

2005年8月18日	2限目	担当：国沢
学習事項		
NEETについての発表・討論②		
授業の流れ		
<p>ニート対策について調べる担当の学習者が、まとめてきたレジュメに沿って発表する。他の学習者はそれを聞いて質問する。その後、各国の対策について話したり、既に日本で働いている人は日本の学校の現状について話す。</p>		
反省		
<p>学習者全員がそれぞれの意見を言ってくれた。発言回数にもさほど偏りがなく、ディスカッションに対して積極的な態度だったと思う。しかし、フィードバックが少ないと感じている学習者がいたことが授業後アンケートから分かった。授業後アンケートは1日の授業について答えてもらったものであり、このコマに対する意見であるかは明らかではないが、ディスカッションにおけるフィードバックを考える良い機会になった。事前に準備してきたレジュメについてのフィードバックは全体で行なったが、ディスカッション中に話を止めることは難しく、学習者の発言意欲の低下も招きかねない。これについては今後の課題である。</p>		

2005年8月18日	3限目	担当：国沢
学習事項		
感情を表す副詞・オノマトペ①		
授業の流れ		
イラストを見て、どんな表現（副詞・オノマトペ）を使うかを確認した後、それを使った文を作ってもらった。		
反省		
聞いたことはあるが忘れてしまうという意見があったので、もっと会話の中で使う練習をするべきだった。副詞の部分は時間が足りず（30分授業だった）、表現の確認だけで終わってしまった。		

2005年8月18日	3限目	担当：稲田
学習事項		
文イントネーション		
授業の流れ		
語と語の修飾関係によってイントネーションが変わることを説明した後、イントネーション曲線入りのモデル会話をペアで練習。前回の授業で扱った、文型によるイントネーションの違いにも留意するように指導する。最後に、ペアごとに発表をしてもらい、誤りがあれば訂正を行った。		
反省		
説明は短めにして、ペアでの練習に重点を置いた。このような練習をいままでしたことがないせいか、学習者はみな一生懸命練習していた。一部の学習者には難しいようで、少し苦勞していた。とりあげた項目はよかったと思うが、このような練習を1日行っただけで、果たしてどれほどの効果があるのか分からない。音声の授業全般にいえるが、1つの項目を毎日少しずつ復習できるようなカリキュラムのほうがよかったと思う。例えば、文イントネーションをカリキュラムの最初のほうで指導すれば、学習者は音声指導以外の時間のロールプレイなどにおいてもイントネーションに気をつけて発話をし、それが復習になり得たかもしれない。		

2005年8月19日	1限目	担当：国沢
学習事項		
オノマトペ②		
授業の流れ		
<p>イラストを見てどんな表現をするかを確認した後、それを使った会話文を提示し、練習した。そして医者と患者という設定で会話を作ってもらった。</p> <p>オノマトペを使った文章を読み、新しい表現を導入した。そして、それぞれの使用例を確認し、学習者にも文を作ってもらった。</p>		
反省		
<p>病気や痛みに関する部分は会話練習の時間が十分あったと思うが、授業後半に導入した「もくもく」、「こつこつ」などの表現については例文を作る活動だけで終わってしまった。休憩の時間や他のコマでオノマトペを使った発話が見られたが、事後アンケートを見ると、学習者によって評価が分かれている。準備段階において、使用につながる練習であるかという認識が甘かった。</p>		

2005年8月19日	2限目	担当：稲田
学習事項		
身体表現		
授業の流れ		
<p>「目に浮かぶ」「口がかたい」などの身体表現を学ぶことを目標とする。「机の脚」などのイラストで導入した後、プリントの穴埋め問題を各自にしてもらおう。その後、答え合わせ。最後に身体表現を使った作文をしてもらい、各自に発表してもらおう。</p>		
反省		
<p>授業前に想像していたより、みな身体表現をあまり知らないようで、新しく学ぶことは多かったようである。しかし、カリキュラムを考えているときからそうであったが、この語彙学習の時間は、余った時間に無理に入れた、つまりおまけ的な位置づけが強く、学習者は「なぜこれを勉強するのか？」という疑問を抱いていたかもしれない。コース全体の目標とそれぞれの授業内容の関わりをもっと真剣に考えるべきであった。</p>		

## VIII. 授業後アンケート

### ●目的

各授業の反省・改善のため、毎日授業後にアンケートを実施した。

## ●質問項目

教師と授業内容についてそれぞれ以下の質問をし、該当する選択肢をチェックしてもらった。また、最後に自由に記述してもらおうスペースを設けた。

### A. 教師について

- ①話し方 ・明確さ (明確である・普通・明確でない)  
・速さ (早すぎる・ちょうど・遅すぎる)  
・語彙 (易しすぎる・ちょうど・難しすぎる)
- ②指示の出し方 (わかりやすい・わかりにくい)
- ③文法説明のし方 (わかりやすい・わかりにくい)
- ④フィードバックの与え方 (良い・悪い・気付かなかった)
- ⑤フィードバックの量 (少なすぎる・ちょうど・多すぎる)

### B. 授業内容について

- ①満足できたか (はい・あまり・いいえ)
- ②授業内容を理解できたか (よく理解できた・理解できた・理解できなかった)
- ③何かを学んだと感じるか (はい・いいえ)  
何を学んだと感じるか／何をもっと学びたかったか  
(語彙・文法・会話ストラテジー・その他)
- ④発話の機会は与えられたか (多かった・あまりなかった・全然なかった)
- ⑤考える時間は与えられたか (多かった・あまりなかった・全然なかった)

## ●結果

・学習者の評価を含んだ授業の振り返りができた。また、すぐに改善できる点は次の授業に反映させることができた。改善した点については、学習者から肯定的な評価がもられた。

・授業中の様子だけでは把握しにくかった学習者間のレベル差（理解度や困難度）を比較的早い段階で知ることができた。

・学習者の負担を考え、1日（3コマ）の授業全体に対して評価してもらった。そのため、どの授業についての評価であるか判断しにくい部分もあった。各授業や各担当者に対するコメントをくれた学習者もいたが、どの授業に対する評価なのか分かるようなチェック欄を設けるなど、もう少し工夫しておけばよかった。

・自由にコメントを書いてもらえる項目を設けたが、期待していたよりもコメントは多くなかった。

## IX. 全体の反省

### ●コース開始前

インタビューではレベル判定に重点を置きすぎてニーズの聞き出しが十分できなかった。上級になるほどニーズにバラつきが出ると予想される。予めいくつかの項目を用意しておく、それが必要であるかどうかを答えてもらうなどして、より具体的にニーズを把握しておく必要があった。

また、学習者のレベル差はインタビューの時に感じた以上に大きかった。インタビュー時に行なったロールプレイと文法クイズによる結果で、ほぼ同じとみなした2人の学習者は、授業時の口頭表現力、読解力などになると明らかにレベルが違っていた。コース開始前に正確にレベルを把握することは不可能であることを念頭に置き、柔軟性のあるカリキュラムを準備しておく必要がある。インタビュー時の判断に頼りすぎたため、レベルの把握にズレがあることに気付くのが遅れ、授業内容や方法の修正・決定が前日になってしまいうことが多かった。

#### ●コース開始後

今回のクラスの軸である「待遇表現の使い分けなどに焦点を置いた会話練習」については、肯定的評価も否定的評価もほとんどされなかった。文法の復習、語彙の学習、ディスカッション、パソコンを使った授業、音声指導などは評価されたが、学習者によって評価する項目も、その項目に対する評価が肯定的であるか否定的であるかも異なった。会話練習が評価されなかった理由として次の2点が考えられる。①「待遇表現の使い分け」への焦点の置き方が曖昧だった。②フィードバックの量が足りず、フィードバックの基準が明確でなかった。①については実習生の認識の甘さと準備不足による。②については授業後アンケートで1番できる学習者から指摘された。個別に質問を受けた場合でも、クラス全体に反映されるものは取り入れたほうがよかったと思う。実習中も「指導項目の焦点から外れず、学習者の自信をそがず、かつ十分な量」という点を意識したが、フィードバックについては、肯定的なものも含めて今後の課題である。

テキストについては、文法リストや語彙リストなど後で参照しやすいものが評価された。推薦図書など、コース後に学習者が自習する助けになるものをもっと紹介すればよかったと思う。

<稲田・国沢>

## 4. 5. 遠足

### I. 遠足の概要

実習前半3日間が終了した翌日の8月13日、学習者と実習生で常滑へ遠足に行った。遠足の目的は、クラスを越えて実習参加者が交流を深めることだった。遠足は自由参加だったが、参加率は高かった。

遠足の日程は次の通りである。

【表1】遠足日程

金山駅集合 (9:00)	
常滑着 2グループに分かれる	
<b>【Aクラス+Dクラス】</b>	<b>【Bクラス+Cクラス】</b>
陶芸体験	常滑焼き物の道散策
常滑焼き物の道散策	昼食
昼食	陶芸体験
2グループ合流し、焼き物の道散策	
常滑港よりフェリーに乗って中部国際空港へ	
中部国際空港にて解散 (16:00)	

参加人数が多く、一度に全員で陶芸を行うことができなかつたため、前半は2グループに分かれて行動した。

### II. 行き先の選定

遠足の行き先は、名古屋から大人数で日帰りで行ける場所、文化的なものに触れることができる場所という条件で候補地を挙げていき、事前アンケート結果を参考に実習生で相談して選定した。

行き先を常滑に決定した後、全員で常滑へ下見に行った。その際、陶芸教室をいくつか回って施設を確認し、大人数で体験できる場所を予約した。

### III. 学習者への連絡と参加費

遠足の実施についてはコース開始前にEメールで学習者に概要を知らせ、参加希望をとった。集合場所や時間は遠足前日にクラスごとに確認を徹底し、当日も連絡が取れるよう学習者の携帯電話番号を教えてもらった。

費用は、交通費のほか、昼食代、陶芸体験費がかかった。全て当日その場ごとに個人で会計を済ませた。

#### IV. 当日の状況

大きな問題は発生せず、無事に楽しい 1 日を過ごすことができた。しかし、非常に暑い日だったため、日中に外を歩き回るのは大変だった。

クラスによっては、他クラスの学習者や教師と交流できることを利用して、他クラスのメンバーと写真を撮る等のタスクを行っていた。

#### V. 学習者の感想

遠足に対する満足度、費用、時間について、コース終了時の事後アンケートで尋ねた。その結果、遠足はよかった、まあまあだったという感想がほとんどだった。よかった理由としては、名古屋以外の町に行けたこと、日本の古い地域を見ることができたこと、陶芸体験がおもしろかったといったものが挙げられた。よくなかった点には、暑い中歩かなければならなかったことが指摘された。

費用は、交通費、昼食代、陶芸体験費の合計で一人 4000 円程度かかったが、ほとんどの学習者が適切という回答だった。

時間は、朝から夕方まで 1 日かかったが、これについても適切だったという回答がほとんどだった。

#### VI. 遠足実施の留意点

今年度の実習はお盆休みを挟んでの日程で、遠足はそのお盆休み中に実施した。一般的な観光地はお盆に営業しているが、企業の工場見学は休みであることが多い。来年度以降も遠足を行う場合は、行き先と時期を併せて検討するとよい。

予約が必要な施設を利用する場合は、早目に人数を確定できるようにする。

<長谷川>

## 4. 6. フェアウェル・パーティー

### I. 目的と概要

クラスを超えて学習者と教師の交流をはかり、6日間のコースの締めくくりとするためにパーティーを企画した。企画の段階では、学習者が学んだ日本語を使ってなんらかの発表を行うという目的も挙げられたが、楽しむことを第一の目的としたため、クラスごとの発表を強制とはしなかった。

時間は、最終日である8月19日の12:00から1時間30分。場所は、文系総合館6階のファカルティ・ラウンジであった。

### II. 準備

紙コップ、紙皿、紙ナプキン、割り箸などの備品は、Aクラスの学習者が授業中の買い物タスクの中で購入した。

それ以外の食事や飲み物は、教師が本山の「DELI」で注文した。今年のパーティーで和食が多く残っていた反省をふまえ、ピザ、オードブルなどの洋食中心にした。

### III. 内容

#### III-1. タイムテーブル

- 0:00 教師リーダーより挨拶
- 0:05 食事と歓談
- 0:30 Aクラスの発表（書道）
- 0:45 ジェスチャー・ゲーム
- 1:00 食事と歓談
- 1:30 教師リーダーより挨拶

#### III-2. Aクラスの発表（書道）

Aクラスの学習者が授業中に書いた書道の作品を掲示し、作者である学習者が一言ずつコメントを加えた。Aクラスは、初めてひらがなを学習する人がほとんどであり、この書道の発表はひらがな学習の集大成というねらいを持っていた。作品には、「たぬき」「くさったキュウリ」などユニークなものも多く、作者がその言葉を選んだ理由を話すたびに、会場に笑いが広がった。

#### III-3. ジェスチャー・ゲーム

パーティーの余興として、ジェスチャー・ゲームを企画した。ルールは、4人が一組となり、与えられたお題（「酔っぱらい」「猿」「マトリックス」など）を4人が同時にジェス

チャーで表現し、一致していれば得点が与えられるというものである。司会は、あらかじめDクラスの中から募り、立候補してくれたひとりの学習者にお願いした。

先生を含む参加者全員が迫真の演技を繰り広げ、おおいに盛り上がった。優勝したチームには、賞品として和菓子が贈られた。

#### Ⅲ－４．その他

Bクラスが間違い探しの掲示を行った。これは、学習者と教師が記念写真風に2枚の写真（2枚はわずかに異なっている）を撮り、パーティーの参加者に間違いを探させるというものである。多くの人が写真に見入り、Bクラスの仲睦まじさを想像しているようだった。

#### Ⅳ．感想と反省

各教師から寄せられた感想と反省を以下に挙げる。

参加は強制しなかったが、出席率は良かった。

パーティーの目的は交流であり、その意味では成功だったと思う。

学習者が司会をしてくれたことで、学習者がより盛り上がり、積極的に参加してくれたような印象があった。

司会はすべて英語で行われたが、日本語クラスのパーティーとしてはもっと日本語を使ったほうがよかったのかもしれないという感もある。

ゲームはルールがわかりやすく、よかったと思う。

結構、食事が余ってしまったことが気になった。

パーティー係を設けていれば良かった。パーティーについては仕事の分担が明確でなかったため、一部の人が負担する形になってしまった。

< 稲田 >

## 4. 7. 事後アンケート

### I. 概要

事後アンケートは、準備から実施に至るまで、コース全体がどうであったかということを中心として、学習者の視点を取り入れて反省するための重要な材料となる。

今年度実習の事後アンケートの質問項目に関しては、前年度までの事後アンケートに含まれていた内容を参考に、コース準備期間である7月下旬から会議とMLによって話し合いが行われた。全体で聞く質問項目については7月26日の話し合いで決定した。その後、文書作成係の作成したものを実習生全員で検討し、回答形式等の細かい部分について修正した後、最終的には8月2日に完成した。なお、A、B、Dクラスは全体で聞く共通項目の他に、それぞれ必要だと思われる質問項目を設けた。

### II. アンケート項目の決定について

今年度の質問事項については基本的に前年度までのものをベースとすることとしたが、来年度以降の実習で、変更可能な事柄に関して聞くこととし、コースの時期や授業時間等の制限があって変更が難しいと思われる部分については項目から削除することとした。具体的な変更点は以下の通りである。

○去年（2004年）度のものから削除する項目（番号は去年度のアンケートの項目番号）

- ・ 1) 授業開始時間
- ・ 2) 授業時間
- ・ 4) コースの時期
- ・ 6) コース案内

○追加・変更する項目（+=追加、→=変更）

- ・ 10) +クラス人数が適当だったかどうか。
- ・ 7) →web アンケートはやりやすかったかどうか。質問量はどうか。  
アンケートは反映されたか。
- ・ 12) →遠足はどうか。費用、日程、内容についても聞く。

以下に、決定した質問事項を表す。

- ①コースの長さは適当でしたか [短かった・ちょうどよい・長かった]
- ②Web アンケートについて
- 回答しやすかったですか [しやすかった・ふつう・しにくかった]
  - 質問量は適当でしたか [少なかった・ちょうどよい・多かった]
- アンケートはコースに反映されていましたか
- [よく反映されていた・まあまあ・ほとんど反映されていなかった]
- ③教材費は適当でしたか [安かった・ちょうどよい・高かった]
- ④教材は役に立ちましたか [はい・どちらでもない・いいえ]
- ⑤クラスは自分のレベルに合っていましたか [簡単すぎた・適当だった・難しすぎた]
- ⑥クラスの人気は適当でしたか [少なかった・ちょうどよい・多かった]
- ⑦遠足について
- 感想 [参加してよかった・まあまあ・あまりおもしろくなかった]
  - 費用は適当でしたか [安かった・ちょうどよい・高かった]
  - 時間は適当でしたか [短かった・ちょうどよい・長かった]
- ⑧その他コメントがあれば自由に書いてください。

### Ⅲ. アンケート結果

以下に事後アンケートの結果を示す。まず、A～Dの全クラスに共通して聞かれた質問項目の結果を表し、次に各クラスで個別に設けられた項目についての結果を示す。

Ⅲ-1. 全クラス共通項目の結果

①コースの長さは適当でしたか																			
短かった					ちょうどよい					長かった					無回答				
A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計
3	2	2	1	8	2	5	2	3	12	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1

②Webアンケートに関して																			
答えやすさ																			
答えやすかった					ふつう					答えにくかった					無回答*				
A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計
5	4	4	4	17	0	2	0	0	2	0	1	0	0	1	1	0	0	1	2
質問量																			
少なかった					ちょうどよい					多かった					無回答				
A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計
1	4	1	0	6	4	3	3	4	14	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
コースへの反映																			
よくされていた					まあまあ					ほとんど されていなかった					無回答				
A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計
4	2	2	3	11	1	4	1	1	7	0	0	0	0	0	1	1	1	1	4

③受講費は適当でしたか																			
安かった					ちょうどよい					高かった					無回答				
A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計
4	5	3	3	15	2	1	1	2	6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

④教材は役に立ちましたか																			
はい					どちらでもない					いいえ					無回答				
A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計
6	7	4	5	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑤クラスは自分のレベルに合っていましたか																			
簡単すぎた					適当					難しすぎた					その他*				
A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計
1	3	0	2	6	4	4	3	0	11	0	0	1	1	2	1	0	0	2	3

⑥クラスの人気は適当でしたか																			
少なかった					ちょうどよい					多かった					無回答				
A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計
0	0	0	0	0	6	7	4	5	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑦遠足について																			
感想																			
参加して良かった					まあまあ					あまり面白くなかった					不参加				
A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計
5	4	4	4	17	0	2	0	0	2	0	1	0	0	1	1	0	0	1	2
費用																			
少なかった					ちょうどよい					多かった					無回答				
A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計
1	4	1	0	6	4	3	3	4	14	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
時間																			
よくされていた					まあまあ					ほとんどされていなかった					無回答				
A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計
4	2	2	3	11	1	4	1	1	7	0	0	0	0	0	1	1	1	1	4

【その他の回答】

- ②Web アンケート：Aクラスの「無回答1人」は、Webではなく、用紙で行ったため。
- ⑤クラスレベル：Aクラスー「時々簡単すぎたと感じる」と書いたのが1人。  
Dクラスー「簡単すぎと適当の間」と「適当と難しすぎの間」が一人。
- ⑦遠足・時間：Bクラスー「短かったとちょうどよいの間」が1人。

### Ⅲ-2. クラス別項目の結果

以下に各クラスの結果を示す。なお、①～は、便宜上つけたものであり、実際のアンケートの番号とは異なっている。

#### Ⅲ-2-1. Aクラス

①次の事ができるようにになりましたか	いいえ 1 ←———— 2 ————— 3 —————→ 4 はい			
・自己紹介	0人	0人	1人	5人
・注文	0	1	2	3
・電話	1	1	2	2
・スケジュールの確認	0	3	3	0
・場所を尋ねる	1	0	0	5
・誘う	1	1	3	1
・数字	0	3	0	3
・ひらがな	0	2	2	2
②次のことは役に立ちましたか				
・自己紹介	0	0	2	4
・注文	0	0	0	6
・電話	0	0	1	5
・スケジュールの確認	0	0	0	6
・場所を尋ねる	0	0	1	5
・誘う	0	0	2	4
・数字	0	0	0	6
・ひらがな	0	0	1	5
③時間は適切でしたか	多すぎ		適切	少なすぎ
・会話	1		5	0
・数字	0		4	2
・ひらがな	0		3	3
・アクティビティ	0		6	0
④テキストについて				
・量は適切でしたか	多すぎ		適切	少なすぎ
	0		6	0
・内容は適切でしたか	いいえ 1 ←———— 2 ————— 3 —————→ 4 はい			
	0	0	2	4

⑤コースに満足しましたか*					
1.内容	・会話	0	0	2	4
	・数字	0	0	1	5
	・ひらがな	0	0	2	4
	・アクティビティ	0	0	1	5
2.テキスト		0	1	2	3
3.教師		0	0	0	6

\* 主な理由

#### 1.内容－会話

- ・良い練習だった。
- ・役立ったが、通常のスピードで話し、聞いたりするレベルまでには達していない。

#### －数字

- ・テストをすべき。
- ・記憶するのに有効な方法だった。
- ・ひらがな・テストをすべき
- ・メニューや標識を理解できるようになった。
- ・学習に役立つゲームをたくさんした。

#### －活動

- ・大変実践的だった

#### 2.テキスト

- ・実際にはあまり使わなかった。
- ・学習事項がよく整理されていた。

#### 3.教師

- ・フレンドリーで、寛容だった。
- ・私達のレベルに適切に合わせていた。

Ⅲ-2-2. Bクラス

①使用された語彙	(1) 簡単だった	(2) ちょうどよい	(3) 難しかった	
	4	3	0	
②トピック	(1) とても面白かった	(2) あまり面白くなかった	(3) 面白くなかった	(1) と(2) の間
	5	1	1	
③得た知識 (文法・表現)	(1)多すぎた	(2)適当	(3)少なすぎた	(1)と(2)の間
	0	3	3	1
④得た知識 (日本文化)	(1)多すぎた	(2)適当	(3)少なすぎた	
	0	4	2	
⑤理解度	低い 1 ←———— 2 ————— 3 —————→ 4 高い			
	0	0	3	4
⑥不快・不満足に 感じたこと	なかった	あった	(理由)	
	6	1 (練習方法・時間配分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が言っていることをホワイトボードに書くと、よりわかりやすかったのでは。</li> <li>・説明が難しい時があった。</li> </ul>	
⑦満足したか	(1)はい	(2)あまり	(3)全然	(1)と(2)の間
	6	0	0	1

Ⅲ-2-3. Dクラス

①役に立ったもの		
・文法－敬語	3人	学校でよく使うから
－授受	1	学校でよく使うから
・会話－意見を言う	1	苦手だから
－相談する	1	日常生活で役立つから
・パソコン－情報収集	3	今後使えそうだから
・ディスカッション－意見を聞く	1	よりコミュニケーション活動だから
・音声－イントネーション	1	自然な発話になるから
②役に立たなかったもの		
・文法－授受	1	簡単すぎ
・パソコン－メール	2	使わない
－情報収集	1	難しすぎ（漢字）
ディスカッション	1	難しすぎ（漢字）
－情報収集		
－発表	1	難しすぎ（漢字）
・その他－レポート	1	難しかった
・オノマトペ	1	量が多かった 練習が不十分
③面白かったもの		
・パソコン－情報収集	2	今後使えそうだから
－ソフトウェア	1	
・ディスカッション－意見を聞く	1	
－討論	1	
・音声－イントネーション	2	
・オノマトペ	2	
・身体表現	1	
・他－意見を言う	1	
④面白くなかったもの		
・文法－授受表現	1	
・パソコン－メール	2	
・オノマトペ	1	

<林>